本書の構成

本書をお読みになる前に

安全にお使いいただくための注意事項や、本書の表記について説明しています。必ずお読みください。

第 1 章　ご購入後の操作

お買い求めいただいたパソコンを使えるようにするための操作を説明しています。必ず、本書の手順に従って操作してください。

第 2 章　快適にお使いいただくために

コンピュータウイルスや、画面の設定方法などについて説明しています。

第 3 章　リカバリと再インストール

本パソコンをご購入時の状態に戻す「リカバリ」とソフトウェアの「再インストール」について説明しています。

第 4 章　困ったときに

おかしいなと思ったときや、わからないことがあったときの対処方法について説明しています。

目次

本書をお読みになる前に 4

本書の表記 4

第 1 章　ご購入後の操作

1 セットアップ 8

Windows セットアップ 8

ユーザー登録について 10

Windows Me 起動ディスクを作成する 10

リカバリ CD-ROM 起動ディスクを準備する
（CD-ROM ドライブなしモデルをお使いの場合） 10

Easy CD Creator および DirectCD の設定方法
（CD-R/RW ドライブをお使いの場合） 12

2 プレインストール仕様の確認 13

ソフトウェア一覧 13

デバイス一覧 15

ドライブ構成 18

3 インストール／アンインストール 20

添付ソフトのインストール 20

アンインストール 21

第 2 章　快適にお使いいただくために

1 コンピュータウイルス対策 24

VirusScan 24

コンピュータウイルスを発見した場合 25

コンピュータウイルスの被害届け 25

2 画面を設定する 26

解像度と色数について 26

マルチモニタ機能を使う（〔CX7〕除く） 27

3 省電力 30

スタンバイと休止状態 30

スタンバイ状態または休止状態からのレジューム 33

ACPI のスタンバイモードを設定する 34

省電力の設定 35

第 3 章　リカバリと再インストール

1 リカバリ概要 38
リカバリの概要 38
ハードディスク領域の概要 38
リカバリの手順 39
留意事項 40
2 リカバリ操作 41
リカバリ前の準備 41
リカバリ方法（ご購入時の状態に戻す） 41
リカバリ方法（領域を設定したあと、ご購入時の状態に戻す） 43
リカバリ終了後 46
FDISK で領域を設定する 46
3 ソフトウェアの再インストール 49
ドライバの再インストール 49
プレインストールソフトの再インストール 50

第 4 章　困ったときに

1 こんなときには 54
トラブル発生時の参照先 54
トラブルシューティング 54
2 それでも解決できないときは 60
お問い合わせ一覧 61
お問い合わせ前の確認シート 62
3 その他の留意事項 63

索引 73

本書をお読みになる前に

本書の表記

■ 本文中の記号

本文中に記載されている記号には、次のような意味があります。

記号	意味
重要	お使いになる際の注意点や、してはいけないことを記述しています。必ずお読みください。
POINT	ハードウェアやソフトウェアを正しく動作させるために必要なことが書いてあります。必ずお読みください。
▶	参照ページや参照マニュアルを示しています。

■ キーの表記と操作方法

本文中のキーの表記は、キーボードに書かれているすべての文字を記述するのではなく、説明に必要な文字を次のように記述しています。

例：【Ctrl】キー、【Enter】キー、【→】キーなど

また、複数のキーを同時に押す場合には、次のように「＋」でつないで表記しています。

例：【Ctrl】+【F3】キー、【Shift】+【↑】キーなど

■ コマンド入力（キー入力）

本文中では、コマンド入力を次のように表記しています。

```
diskcopy  a:  a:
          ↑   ↑
```

- ↑の箇所のように文字間隔を空けて表記している部分は、【Space】キーを 1 回押してください。
- コマンド入力を英小文字で表記していますが、英大文字で入力してもかまいません。
- CD-ROM ドライブのドライブ名を、［CD-ROM ドライブ］と表記しています。入力の際は、お使いの環境に合わせて、ドライブ名を入力してください。

  ［CD-ROM ドライブ］:¥setup.exe

■ 画面例

本書に記載されている画面は一例です。実際に表示されるウィンドウやファイル名などとは異なる場合があります。ご了承ください。

■ 連続する操作の表記

本文中の操作手順において、連続する操作手順を、「→」でつなげて記述しています。

例：「スタート」ボタンをクリックし、「プログラム」をポイントし、「アクセサリ」をクリックする操作

↓

「スタート」ボタン→「プログラム」→「アクセサリ」の順にクリックします。

■ BIOS セットアップの表記

本文中の BIOS セットアップの設定手順において、各メニューやサブメニューまたは項目を、「－」（ハイフン）でつなげて記述する場合があります。

例：「メイン」メニューの「フロッピーディスク A」の項目を「使用しない」に設定します。

↓

「メイン」－「フロッピーディスク A」：使用しない

■ CD-ROM ドライブ

CD-ROM ドライブが搭載されていないモデルの場合、各ドライブが必要な操作では、別売の周辺機器を用意してください。使用できる周辺機器については、『システム構成図』をご覧ください。

周辺機器の使用方法については周辺機器のマニュアルをご覧ください。

■ お問い合わせ先／ URL

本文中に記載されているお問い合わせ先や WWW の URL は 2001 年 4 月現在のものです。変更されている場合は、「富士通パーソナル製品に関するお問合せ窓口」へお問い合わせください（••▶『修理サービス網一覧表』参照）。

■ 製品の呼びかた

本書に記載されている製品名称を、次のように略して表記します。

製品名称	本書での表記	
Microsoft® Windows® Millennium Edition	Windows Me	Windows
Microsoft® Windows® 98 operating system SECOND EDITION	Windows 98	
Microsoft® Windows® 95 operating system	Windows 95	
Microsoft® Windows® 2000 Professional	Windows 2000	
Microsoft® Windows NT® Workstation Operating System Version 4.0	Windows NT	
Microsoft® MS-DOS® operating system	MS-DOS	
VirusScan Ver.4.5.0 with SP1	VirusScan	
Adobe® Acrobat® Reader 4.05	Acrobat Reader	
ドライバーズ CD ／マニュアル CD	ドライバーズ CD	

■ 機種名表記

本文中の機種名表記は、次のようになっています。機種名を確認してください。

機種名	本文中の表記	
FMV-611GSL7e/610GSL7e	〔SL7e〕	本パソコン パソコン本体
FMV-610GSL7/6866SL7/6766SL7c	〔SL7〕	
FMV-610GCL7/6866CL7/6766CL7c	〔CL7〕	
FMV-6750CL7s	〔CL7s〕	
FMV-6766ML7c	〔ML7〕	
FMV-6866CX7/6766CX7c	〔CX7〕	

Microsoft、Windows、MS、MS-DOS、Windows NT は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標です。
VirusScan は、米国 Network Associates 社及び関連会社の商標又は登録商標です。
その他の各製品名は、各社の商標、または登録商標です。
その他の各製品は、各社の著作物です。

All Rights Reserved, Copyright© 富士通株式会社 2001
画面の使用に際して米国 Microsoft Corporation の許諾を得ています。

第 1 章

ご購入後の操作

お買い求めいただいたパソコンを使えるようにするための操作を説明しています。必ず、本書の手順に従って操作してください。

1 セットアップ 8
2 プレインストール仕様の確認 13
3 インストール／アンインストール 20

1 セットアップ

初めて電源を入れたあとに行う Windows の初期設定（Windows セットアップ）について説明します。必ず、本書の手順に従って操作してください。

Windows セットアップ

電源を入れて Windows セットアップを始めます。

■ 留意事項

- Windows セットアップを行う前に、周辺機器を取り付けないでください（カスタムメイドオプションを除く）。Windows セットアップを行う前に周辺機器を取り付けると、Windows セットアップが正常に行われない場合があります。
- Windows セットアップ時に音が鳴ります。スピーカーを接続している場合はボリュームを調整してください。
- Windowsセットアップの各ダイアログボックスが完全に表示されないうちにキーを押すと、Windows セットアップが正常に行われない場合があります。ダイアログボックスが完全に表示されてから、マウスで操作してください。
- Windows セットアップが進められなくなった場合は、次の手順に従って、パソコン本体の電源を入れ直してください。
  1. パソコン本体の電源スイッチを 4 秒以上押したままにして、強制的に電源を切ります。
  2. 10 秒以上たってから、パソコン本体の電源を入れます。
- 電源を入れたあと、画面が中央に表示されない場合は、ディスプレイの設定機能を使用して調整してください（〔CX7〕除く）。
- USB キーボード（FMV-KB331/331S/332）をお使いになる場合は、本体の USB コネクタに直接、接続してお使いください。
- セットアップ中に「DHCP クライアント」ダイアログボックスが表示されることがあります。「はい」をクリックしてセットアップを続けてください。
- 電源を入れた後、「新しいハードウェアの追加ウィザード」ダイアログボックスが表示されることがあります。お使いのモニタに合わせたドライバをインストールしてください。

■ セットアップ

1 **本パソコンの電源を入れます（••▶『ハードウェアガイド』参照）。**
しばらくすると、「ネットワークパスワードの入力」ダイアログボックスが表示されます。

POINT

- お使いの環境によっては、「ネットワークパスワードの入力」ダイアログボックスは表示されず、「Microsoft Windows へようこそ」の画面が表示されます。
  手順 3 へ進んでください。

2 「キャンセル」をクリックします。

POINT

- カスタムメイドオプションでSCSIカードを選択した場合は、続けて次の手順を行ってください（〔ML7〕〔CX7〕除く）。
  1. 「新しいハードウェアの追加ウィザード」ダイアログボックスで「適切なドライバを自動的に検索する（推奨）」が選択されていることを確認して、「次へ」をクリックします。
     しばらくすると、最適なドライバが自動的にインストールされます。
  2. 「完了」をクリックします。

「Microsoft Windows へようこそ」の画面が表示されます。

3 「次へ」をクリックします。
使用許諾契約書が表示されます。
「使用許諾契約書」とは、本パソコンにあらかじめインストールされている Windows を使用するうえでの契約を記述したものです。

4 「使用許諾契約書」をよく読み、「同意します」をクリックし、「次へ」をクリックします。

POINT

- 「同意しません」を選択した場合は、「次へ」をクリックし、メッセージに従って操作してください。

「設定が完了しました」と表示されます。

5 「完了」をクリックします。

〔SL7e〕〔CL7s〕〔ML7〕〔CX7〕の場合
これで、Windows セットアップが完了しました。
〔SL7〕〔CL7〕の場合
続けて、手順 6 へ進んでください。

6 「スタート」ボタン→「Windows の終了」の順にクリックします。
「Windows の終了」ダイアログボックスが表示されます。

7 「再起動」を選択し、「OK」をクリックします。
本パソコンが再起動します。
新しいハードウェアの検索が自動で行われ、再起動メッセージが表示されます。

8 「はい」をクリックします。
本パソコンが再起動します。

これで、Windows セットアップが完了しました。

■ セットアップ後

カスタムメイドオプションでアプリケーションを選択している場合は、添付の『アプリケーション補足説明書』をご覧ください。

POINT

- カスタムメイドオプションで CD-R/RW ドライブユニットを選択している場合は、「Easy CD Creator」および「DirectCD」の設定を行ってください（••▶ P.12）。
- 〔SL7e〕〔SL7〕〔CL7〕〔CL7s〕〔ML7〕では、ご購入時のボリュームコントロールが最小に設定されています。スピーカーを接続して使用する場合、タスクバーのスピーカーアイコンをダブルクリックし、ボリュームを調整してください。

ユーザー登録について

本パソコンのユーザー登録は、2001 年 5 月頃から弊社 Web サイトで行えるようになります。詳しくは、「FM WORLD.NET」（http://www.fmworld.net/）にてご案内する予定です。ご了承ください。

Windows Me 起動ディスクを作成する

「Windows Me 起動ディスク」とは、Windows が正しく起動できなくなった場合に、コンピュータを起動するために使うディスクです。不測の事態に備えて、なるべく早く「Windows Me 起動ディスク」を作成してください。

「Windows Me 起動ディスク」の作成には、2HD のフロッピーディスクが 1 枚必要になります。あらかじめ用意してから、「コントロールパネル」ウィンドウの「アプリケーションの追加と削除」アイコンで「起動ディスク」タブの「ディスクの作成」をクリックし、表示されるメッセージに従って作成してください。

リカバリ CD-ROM 起動ディスクを準備する（CD-ROM ドライブなしモデルをお使いの場合）

CD-ROM ドライブなしモデルをお使いの場合、リカバリには「リカバリ CD-ROM 起動ディスク」が必要になるため、必ず作成してください。

「リカバリ CD-ROM 起動ディスク」の作成には「リカバリ CD-ROM」が必要です。ATAPI の CD-ROM ドライブを内蔵し、かつ CD ブートできる機種を使用して、「リカバリ CD-ROM 起動ディスク」を作成してください。

次のものを用意してください。

- リカバリ CD-ROM
- 1.44MB フォーマット済 2HD フロッピーディスク 1 枚（購入してください）
- フロッピーディスクのラベル 1 枚（購入してください）

■ リカバリ CD-ROM 起動ディスクの作成

1 「リカバリ CD-ROM」をセットします。

2 本パソコンを再起動します。

3 「FUJITSU」ロゴの下に文字が表示されたら、すぐに【F12】キーを押し続けます。
「起動メニュー」が表示されます。

4 CD-ROM ドライブを選択し、【Enter】キーを押します。

5 「FMV リカバリ CD-ROM」が画面が表示されたら、【N】キーを押します。
コマンドプロンプトが表示されます。

6 次のように入力し、【Enter】キーを押します。

```
z:¥fjuty¥mkfd.bat
```

「リカバリ起動ディスクを作成します。」と表示されます。

7 作成するフロッピーディスクが書き込み可能な状態であることを確認し、フロッピーディスクドライブにセットして、【Enter】キーを押します。
「リカバリ CD-ROM 起動ディスク」の作成が始まります。
しばらくすると「リカバリ起動ディスクの作成が終了しました」と表示されます。

8 作成した起動ディスクに、「リカバリ CD-ROM 起動ディスク」と記入したラベルを貼ります。
ラベルには「作業用」と記入し、お使いのパソコンの機種名を記入しておくことをお勧めします。

■ リカバリ CD-ROM 起動ディスクの設定

1 「リカバリ CD-ROM 起動ディスク」に CD-ROM ドライバのファイルをコピーします。
コピーするファイルについては、お使いになる CD-ROM ドライブに添付されているマニュアルなどをご覧ください。

2 Config.sys を修正します。
「リカバリ CD-ROM 起動ディスク」の「A:¥Config.sys」の該当箇所（XXXXXXXX）を使用するドライバ名に変更してください。

```
DEVICE=XXXXXXXX.SYS  /D:OEMCD001
```

作成した「リカバリ CD-ROM 起動ディスク」は、書き込み禁止の状態にしてお使いください。

Easy CD Creator および DirectCD の設定方法（CD-R/RW ドライブをお使いの場合）

カスタムメイドオプションで CD-R/RW ドライブユニットを選択している場合、「Easy CD Creator」および「DirectCD」がプレインストールされます。これらのソフトウェアをお使いになる場合は、次の設定を行ってください。

1 「スタート」ボタン→「プログラム」→「アクセサリ」→「システムツール」→「システム情報」の順にクリックします。
「ヘルプとサポート」画面が表示されます。

2 「ツール」メニュー→「システム設定ユーティリティ」の順にクリックします。

3 「システム設定ユーティリティ」ダイアログボックスの「スタートアップ」タブをクリックします。

4 一覧の次のソフトウェアに☑を付けます。
・Easy CD Creator：「CreateCD」
・DirectCD：「Adaptec DirectCD」

5 「OK」をクリックします。
再起動メッセージが表示されます。

6 「はい」をクリックします。
本パソコンが再起動し、「システム設定ユーティリティ」ダイアログボックスが表示されます。

7 「今後このダイアログを表示しない」に☑を付け、「OK」をクリックします。

2 プレインストール仕様の確認

Windows セットアップが終了した時点での本パソコンの環境は、次のとおりです。

POINT

- 各ドライバおよびソフトウェアの使用方法については、ヘルプまたは Readme.txt などの説明ファイルをご覧ください。

ソフトウェア一覧

■ プレインストールソフト

名称	備考
Microsoft Windows Millennium Edition 4.90.3000	操作方法など詳細については、「スタート」メニューに登録されているオンラインヘルプか、添付されている『ファーストステップガイド』をご覧ください。
Internet Explorer 5.5	WWW ブラウザです。
Microsoft IME2000	日本語入力変換ユーティリティです。
Windows Me ツール	Windows Me に添付されているツール類が C:¥CDEXTRA.JPN に格納されています。使用方法については、フォルダ内の説明ファイルなどをご覧ください。
DirectX8.0	マルチメディアの機能を拡張します。DirectX8.0 に対応したソフトウェアの高速表示・高品位音声再生を実現します。
Windows 環境調査ツール（FM Advisor）	本パソコンの使用環境を調査します。また、動作環境取得ツールとしても使用できます。
Acrobat Reader	PDF（Portable Document Format）書類を表示、閲覧、印刷できます。
3 モードフロッピーディスクドライバ	1.44MB、1.2MB、720KB の DOS/V フォーマット済みのフロッピーディスクを読み書きできる 3 モード対応のフロッピーディスクドライブ用のドライバです。
FMV 診断	ハードウェアの故障箇所を的確に診断します。
FM 一発修正	文字やアイコン表示の異常を修正します。
Easy CD Creator ※	データ CD や音楽 CD を作成するためのアプリケーションです。使用方法はアプリケーション内のヘルプをご覧ください。

名称	備考
DirectCD ※	CD-R や CD-RW に直接データを書き込むためのアプリケーションです。使用方法はアプリケーションのヘルプをご覧ください。
IDE ドライバ〔SL7〕〔CL7〕	IDE インタフェースのドライバです。

カスタムメイドオプションのアプリケーションについては、添付の『アプリケーション補足説明書』や各アプリケーションのマニュアルをご覧ください。
プレインストールソフトは、必要に応じてアンインストールしてください（••▶ P.21）。
※ : カスタムメイドオプションで内蔵 CD-R/RW ドライブユニットを選択している場合

■ OS 追加プログラム

ご購入時の状態では、次の Windows Me 用の修正プログラムがインストールされています。

名称	備考
修正モジュール	次の問題を修正するプログラムをインストールしています。 ・Windows 終了時に、キャッシュに保存されているデータがハードディスクに書き込まれずにエラーとなり、スキャンディスクが起動する問題

■ 添付ソフト（未インストール）

インストール方法は、「添付ソフトのインストール」（••▶ P.20）をご覧ください。

POINT

- 一部のソフトウェアの使用方法については、ヘルプまたは Readme.txt などの説明ファイルをご覧ください。
- 選択したカスタムメイドオプションによっては、この他にソフトウェアが追加されることもあります。

名称	備考
VirusScan	コンピュータウイルスを検出・駆除します（••▶ P.24）。
DeskView	パソコンのメモリ、ハードディスクなどの資産の情報を表示したり、パソコンを監視し発生した異常を参照できます。また、パソコンの電源を制御できます。
FM-Menu	ボタン式メニューから簡単にアプリケーションを起動できます。また、特定キーの入力や Windows 機能を制限します。
WinDVD〔CL7〕※	映画や音楽などの DVD を再生するアプリケーションです。インストール方法は、WinDVD が収録されている CD-ROM 内の install.txt をご覧ください。
はじめよう！インターネット（@nifty）	インターネットのプロバイダである @nifty に入会できます。

※ : カスタムメイドオプションで DVD-ROM ドライブユニットを選択している場合

デバイス一覧

POINT

- 本パソコンの仕様は、改善のため予告なく変更することがあります。その際、デバイス名称などが本書の記述と異なる場合があります。あらかじめ、ご了承ください。

デバイス	名称	備考
CD-ROM	〔SL7e〕〔SL7〕 MATSHITA CD-ROM CR-594 または SAMSUNG CD-ROM SC-140P 〔CL7〕 TEAC CD-224E 〔CL7s〕 NEC CD-ROM DRIVE:282 または TEAC CD-224E 〔ML7〕 MATSHITA CD-ROM CR-594 または SAMSUNG CD-ROM SC-140P 〔CX7〕 MATSHITA CD-ROM CR-1760	
	〔SL7e〕〔SL7〕〔ML7〕 MATSHITA CD-RW CW-7585 または _NEC NR-7500A 〔CL7〕〔CL7s〕〔CX7〕 MATSHITA UJDA310	CD-R/RW ドライブ （カスタムメイドオプション）
	〔CL7〕 MATSHITA DVD-ROM SR-8175	DVD-ROM ドライブ （カスタムメイドオプション）
PCMCIA ソケット	〔CX7〕 Texas Instruments PCI-1420 CardBus Controller Texas Instruments PCI-1420 CardBus Controller	
SCSI コントローラ	〔SL7e〕〔SL7〕〔CL7〕〔CL7s〕 Symbios 8100S PCI SCSI Adapter;53C810 Device	SCSI カード （カスタムメイドオプション）
Smart Card Reader	〔SL7e〕〔SL7〕〔CL7〕 Fujitsu-Siemens Serial Smart Card Reader	スマートカードリーダ （カスタムメイドオプション）
キーボード	106 日本語（A01）キーボード（Ctrl + 英数）	
サウンド、ビデオ、およびゲームのコントローラ	〔SL7e〕〔SL7〕〔CL7〕〔CL7s〕 Crystal WDM Audio Codec 〔CX7〕 Crystal SoundFusion(tm) CS4281 Joystick Crystal SoundFusion(tm) CS4281 WDM Audio 〔ML7〕 SoundMAX Integrated Digital Audio	
ディスクドライブ	〔SL7e〕〔SL7〕〔ML7〕 FUJITSU MCE3130AP FUJITSU MCE3064AP	光磁気ディスクドライブ （上段：1.3GB、下段：640MB） （カスタムメイドオプション）

デバイス	名称	備考
ディスプレイ アダプタ	〔SL7e〕 Rage128 Ultra 4XL 〔SL7〕〔CL7〕 Intel(R) 82815 Graphics Controller 〔CL7s〕 S3 Graphics Inc. ProSavage 〔ML7〕〔CX7〕 Intel(R) 82810E Graphics Controller	
ネットワーク アダプタ	〔SL7e〕〔CX7〕 Intel 8255x-based PCI Ethernet Adapter (10/100) ダイヤルアップアダプタ 〔SL7〕〔CL7〕 Intel(R) PRO/100 VM Desktop Adapter 〔CL7s〕〔ML7〕 Realtek RTL8139(A/B/C/8130) PCI Fast Ethernet NIC ダイヤルアップアダプタ	
ハードディスク コントローラ	〔SL7e〕〔ML7〕 Intel 82801AA Bus Master IDE Controller セカンダリ IDE コントローラ（デュアル FIFO） プライマリ IDE コントローラ（デュアル FIFO） 〔SL7〕〔CL7〕 Intel(r) 82801BA Ultra ATA Controller Primary Ultra ATA controller Secondary Ultra ATA controller 〔CL7s〕 VIA Bus Master PCI IDE Controller セカンダリ IDE コントローラ（デュアル FIFO） プライマリ IDE コントローラ（デュアル FIFO） 〔CX7〕 Intel 82801AA Bus Master IDE Controller プライマリ IDE コントローラ（デュアル FIFO）	
フロッピーディスク コントローラ	Fujitsu 3-mode Floppy（FMV Series） 標準フロッピーディスクコントローラ	1.44MB/1.2MB/720KB の各容量のフロッピーディスクを読み書きできます。
ポート（COM/LPT）	〔SL7e〕〔SL7〕〔CL7〕〔CL7s〕〔ML7〕〔CX7〕 プリンタポート（LPT1） 通信ポート（COM1）	〔SL7e〕〔SL7〕〔CL7〕では、カスタムメイドオプションのスマートカードリーダを選択した場合、通信ポート（COM2）が表示されます。
マウス	PS/2 互換マウスポート	
モニタ	〔SL7e〕〔SL7〕〔CL7〕〔CL7s〕〔ML7〕 Super VGA 800 × 600 〔CX7〕 Super VGA 1024 × 768	解像度／色数 〔CX7〕除く：800 × 600 / High Color（16 ビット） 〔CX7〕：1024 × 768 / High Color（16 ビット） リフレッシュレート 〔SL7e〕〔SL7〕〔CL7〕〔CL7s〕〔ML7〕：アダプタの既定値 〔CX7〕：最適

デバイス	名称	備考
ユニバーサル シリアルバス コントローラ	〔SL7e〕〔ML7〕〔CX7〕 Intel(r) 82801AA USB Universal Host Controller USB ルートハブ 〔SL7〕〔CL7〕 Intel(r) 82801 BA/BAM USB Universal Host Controller 1 Intel(r) 82801 BA/BAM USB Universal Host Controller 2 USB ルートハブ USB ルートハブ 〔CL7s〕 USB ルートハブ VIA Tech 3038 PCI to USB Universal Host Controller	

ドライブ構成

ドライブ	容量	備考
C	約 4GB	FAT32
D	〔総容量〕－〔C ドライブの容量〕	FAT32
E	CD-ROM ドライブ※	CD-ROM、CD-R/RW または DVD 搭載時

※：カスタムメイドオプションで光磁気ディスクドライブを選択した場合、E ドライブが光磁気ディスクドライブに、F ドライブが CD-ROM、CD-R/RW または DVD ドライブになります。

POINT

- Windows NT などの FAT32 をサポートしていない OS からは、FAT32 に設定されたディスク領域を認識できません。Windows NT などの OS でこのディスク領域を使用する場合には、FAT32 から FAT16 へ設定を変更してください（••▶ P.39）。
- フォーマットの形式やドライブの容量を変更した場合、変更したドライブの中身はすべて消えてしまいます。必要に応じてバックアップを行ってから、実行してください。

■ DMA の設定

デバイス	プライマリ		セカンダリ	
	0	1	0	1
〔SL7e〕	●	○	○※1	○
〔SL7〕	●	○	○※1	○
〔CL7〕	●	－	○※2	－
〔CL7s〕	●	－	×	－
〔ML7〕	●	○	○※1	○※1
〔CX7〕	●	×	－	－

●：ご購入時 DMA 設定
○：DMA 設定可
×：DMA 設定不可
－：増設不可
※1：カスタムメイドオプションで光磁気ディスクドライブをお使いの場合は、DMA の設定はできません。
※2：カスタムメイドオプションで CD-R/RW ドライブをお使いの場合は、DMA の設定はできません。

□〔SL7e〕〔CL7s〕〔ML7〕〔CX7〕の場合

1 「マイコンピュータ」アイコンを右クリックし、「プロパティ」をクリックします。
「システムのプロパティ」ダイアログボックスが表示されます。

2 「デバイスマネージャ」タブの「種類別に表示」をクリックします。

3 DMA 設定を変更したいデバイス（CD-ROM なら「CD-ROM」、ハードディスクなら「ディスクドライブ」など）をダブルクリックします。

4 変更するデバイス名を右クリックし、「プロパティ」をクリックします。
「(デバイス名) のプロパティ」ダイアログボックスが表示されます。

5 「設定」タブの「DMA」のチェックボックスで設定を変更し、「OK」をクリックします。
なお、カスタムメイドオプションの光磁気ディスクドライブは、「DMA の設定」の表で○になっていても DMA に設定しないでください。
本パソコンの再起動後、設定が有効になります。

□〔SL7〕〔CL7〕の場合

設定方法については、「ドライバーズ CD」の「¥Ide¥Install.txt」をご覧ください。

3 インストール／アンインストール

Windows セットアップの終了後、必要がある場合には、次の方法でソフトウェアのインストールやアンインストールを行ってください。

添付ソフトのインストール

■ VirusScan のインストール

1 「ドライバーズ CD」をセットします。

2 「スタート」ボタン→「ファイル名を指定して実行」の順にクリックします。

3 「名前」に次のように入力し、「OK」をクリックします。
[CD-ROMドライブ]:¥vscan¥setup.exe

このあとは、メッセージに従って操作します。

■ DeskView のインストール

インストール手順については、「ドライバーズ CD」内の「¥Deskview¥Read1st.txt」をご覧ください。

■ FM-Menu のインストール

1 「ドライバーズ CD」をセットします。

2 「スタート」ボタン→「ファイル名を指定して実行」の順にクリックします。

3 「名前」に次のように入力し、「OK」をクリックします。
[CD-ROMドライブ]:¥fmmenu¥setupfm-menu.exe
「FM-Menu インストール」が表示されます。

4 「次へ」をクリックします。

このあとは、メッセージに従って操作します。

■ はじめよう！インターネット（@nifty）のインストール

1 「ドライバーズ CD」をセットします。

2 「スタート」ボタン→「ファイル名を指定して実行」の順にクリックします。

3 「名前」に次のように入力し、「OK」をクリックします。
[CD-ROMドライブ]:¥nifty¥setup.exe

このあとは、メッセージに従って操作します。

アンインストール

■ 留意事項

アプリケーションをアンインストールする場合は、次の点に注意してください。

- アプリケーションをすべて終了してからアンインストールを始める
- DLL ファイルは削除しない

  アンインストール時に次のようなメッセージが表示されることがあります。

  「この DLL は複数のアプリケーションで使用されている可能性があります。削除を行いますか」

  この DLL ファイルを削除すると、他のアプリケーションが正常に動作しなくなることがあります。アプリケーションのマニュアル、ヘルプ、または Readme.txt などの説明ファイルで、特に指示がない場合は DLL ファイルは削除しないことをお勧めします。

■ アンインストール方法

一般的に、次の方法があります。

- アンインストール機能を使用する

  アプリケーションにアンインストール機能が用意されている場合があります。
- 「アプリケーションの追加と削除」機能を使用する

  「コントロールパネル」ウィンドウの「アプリケーションの追加と削除」機能を使用してアプリケーションを削除できます。
- ファイルを削除する

  アンインストール機能が用意されていない次の表のアプリケーションについては、ファイルまたはフォルダを削除してください。

名称	削除するファイル名・フォルダ名
Windows Me ツール	C:¥CDEXTRA.JPN

Windows Me ツールは一度削除すると、リカバリを行わないと復旧できません。

アンインストール方法はアプリケーションによって異なります。詳細は各アプリケーションのマニュアル、ヘルプ、または Readme.txt などの説明ファイルをご覧ください。

Memo

第 2 章

快適にお使いいただくために

コンピュータウイルスや、画面の設定方法などについて説明しています。

1　コンピュータウイルス対策 24
2　画面を設定する 26
3　省電力 30

1　コンピュータウイルス対策

コンピュータウイルスはプログラムの１つで、なんらかの方法でコンピュータ内に読み込まれる（感染する）と、コンピュータウイルス自身で増殖したり、大切なデータを壊したり、コンピュータを起動できなくしたりと、悪影響を及ぼします。

VirusScan

本パソコンにはウイルスを発見するためのソフトとして、VirusScan を添付しています。入手したフロッピーディスクや光磁気ディスクなどは、ウイルスチェックを行ったうえで使用してください。VirusScan の使用方法については、ヘルプをご覧ください。
VirusScan は、ご購入時にはインストールされていません。必要に応じてインストールしてください。

■ 留意事項

- 「McAfee VShield」を起動していると、アプリケーションのインストールが正常に行われなかったり、ご使用のアプリケーションによっては不具合が発生したりすることがあります。この場合は次のどちらかの方法で「McAfee VShield」を終了してください。
  ・「スタート」ボタン→「プログラム」→「Network Associates」→「VirusScan コンソール」の順にクリックします。「VirusScan コンソール」ウィンドウで「VShield」をクリックし、「タスク」メニュー→「使用不可」の順にクリックします。
  ・タスクバーの「VShield」アイコンを右クリックし、「終了」をクリックします。
- VirusScan でコンピュータウイルス検査を行っているときは、他のアプリケーションを実行したり、検査中のフロッピーディスクをフロッピーディスクドライブから取り出したりしないでください。他のアプリケーションを実行するなど、別の操作を行うと、エラーメッセージが表示される場合があります。
- 本パソコンをフロッピーディスクから起動する場合、そのフロッピーディスクがコンピュータウイルスに感染していないかをチェックしてからお使いください。
- VirusScan は、コンピュータウイルスの情報を記載したデータファイル（DAT ファイル）と、検査プログラム（スキャンエンジン）を使用しています。DAT ファイルは次のサイトから無料でダウンロードできます。定期的に更新してください。
  http://www.nai.com/japan/
  スキャンエンジンを更新する場合は、最新版の VirusScan をご購入ください。

コンピュータウイルスを発見した場合

コンピュータウイルスを発見した場合は、被害届けを提出してください。

重 要

- **コンピュータウイルスに感染してしまい、本パソコンの修理が必要になった場合、保証期間内であっても有償修理になる場合があります。ご了承ください。**

コンピュータウイルスの被害届け

コンピュータウイルスの届け出制度は、「コンピュータウイルス対策基準」（平成 12 年 12 月 28 日付通商産業省告示第 951 号）の規定に基づいています。コンピュータウイルスを発見した場合、コンピュータウイルス被害の拡大と再発を防ぐために必要な情報を、情報処理振興事業協会（IPA）セキュリティセンターに届け出ることとされています（http://www.ipa.go.jp/security/）。

2 画面を設定する

ここでは、ディスプレイの解像度と色数を変更する方法と各機能について説明します。

解像度と色数について

本パソコンでは、Windows の「画面のプロパティ」ダイアログボックスの「設定」タブで次の解像度、色数を選択／変更できます。
なお、High Color は 65536 色、True Color は 16777216 色です。

解像度（ピクセル）	色数	〔SL7e〕	〔SL7〕〔CL7〕〔ML7〕	〔CL7s〕	〔CX7〕
640 × 480	16 色	○	○	×	○
	256 色 High Color（16 ビット）			○	
	True Color（24 ビット）	×		×	
	True Color（32 ビット）	○	×	○	×
800 × 600	256 色 High Color（16 ビット）	○	○	○	○
	True Color（24 ビット）	×		×	
	True Color（32 ビット）	○	×	○	×
1024 × 768	256 色 High Color（16 ビット）	○	○	○	○
	True Color（24 ビット）	×		×	
	True Color（32 ビット）	○	×	○	×
1280 × 1024	256 色 High Color（16 ビット）	○※	○※	○	×
	True Color（24 ビット）	×		×	
	True Color（32 ビット）	○※	×		

※：デジタルディスプレイ（DVI 出力）では、表示されません。

POINT

- 設定できる色数は、画面の解像度によって異なります。解像度を高くすると、設定できる色数は少なくなります。
- 解像度／色数を変更する場合は、必ず他のアプリケーションや常駐しているソフトウェアをすべて終了させてから行ってください。また、変更後は必ず Windows を再起動してください。
- 色数やリフレッシュレートを変更すると、画面がディスプレイ中央に表示されない場合があります。この場合は、ディスプレイの仕様を確認して適切なリフレッシュレートを設定するか、ディスプレイの設定機能を使用して調整してください（〔CX7〕除く）。
- ディスプレイによって、設定できる解像度が異なります。詳細はディスプレイの取扱説明書をご覧ください（〔CX7〕除く）。
- 「設定」タブの「詳細」をクリックし、「全般」タブの「フォントサイズ」でフォントサイズを変更すると、正常に表示されない場合があります。

マルチモニタ機能を使う（〔CX7〕除く）

Windows Me には、1 台のパソコンに複数のグラフィックスカードとディスプレイを接続して、複数台のディスプレイで 1 つのデスクトップを表示できる「マルチモニタ機能」があります。ここでは、例として、2 台のディスプレイでマルチモニタ機能を使う方法を説明します。

■ 留意事項

- グラフィックスカードを選ぶときは次の点にご注意ください。
  - ・本パソコンには AGP の空きスロットがないため、AGP 規格のグラフィックスカードは使用できません。
  - ・Windows Me に対応しているグラフィックスカードであっても、添付されているディスプレイドライバがマルチモニタ機能に対応していない場合があります。
    マルチモニタ機能に対応しているかどうかを製造元のメーカーにお問い合わせください。
- マルチモニタ機能を使用する前に BIOS セットアップで次の項目を設定してください。
  - ・〔SL7e〕〔SL7〕〔CL7〕…「詳細」メニュー－「ディスプレイ設定」－「プライマリディスプレイ」: Onboard
  - ・〔CL7s〕…「詳細」メニュー－「内蔵デバイス設定」－「プライマリディスプレイ」: Onboard
  - ・〔ML7〕…「Main」メニュー－「Boot Options」－「Primary Display」: Onboard VGA

□ 用意するもの

- マルチモニタ機能に対応している PCI 規格のグラフィックスカード
- PCI 規格のグラフィックスカードに添付されているディスプレイドライバ(マルチモニタ機能対応のもの)
- ディスプレイ

■ グラフィックスカードとディスプレイを接続する

グラフィックスカードを取り付けてディスプレイを接続し、ディスプレイドライバをインストールします。

1 グラフィックスカードを本パソコンに取り付けます（••▶『ハードウェアガイド』参照）。

2 取り付けたグラフィックスカードに、ディスプレイを接続します。
接続方法については、ディスプレイとグラフィックスカードのマニュアルをご覧ください。

3 ディスプレイの電源ケーブルを接続します。
接続方法については、ディスプレイのマニュアルをご覧ください。

4 ディスプレイドライバをインストールします。
グラフィックスカードのマニュアルを参照して、ディスプレイドライバをインストールしてください。ドライバをインストールしたあと、本パソコンを再起動してください。

POINT

- 自己診断（POST）時、MS-DOS モード時、Safe モード時などのマルチモニタ機能が有効ではない状態では、プライマリアダプタのみが有効です。
「画面のプロパティ」ダイアログボックスの「設定」タブでは、プライマリアダプタは「1」と表示されます。
- 〔ML7〕では、複数のグラフィックスカードを増設した場合、PCI スロットの番号が小さい順にアダプタが割り当てられます。〔SL7e〕〔SL7〕〔CL7〕〔CL7s〕では、大きい順に割り当てられます。

■ マルチモニタ機能を設定する

□ 留意事項

- 増設したグラフィックスカードによっては、本パソコンにあらかじめ接続されているディスプレイの画面が正しく表示されない場合があります。その場合は、ディスプレイドライバを再インストールしてください（••▶ P.49）。

ディスプレイドライバをインストールし、本パソコンを再起動したあと、次の操作を行ってください。

1 デスクトップで右クリックし、「プロパティ」をクリックします。
「画面のプロパティ」ダイアログボックスが表示されます。

2 「設定」タブをクリックします。

3 「2」と書かれたディスプレイのイラストをクリックします。
「このモニタを使用可能にしますか？」と表示されます。

4 「はい」をクリックします。

5 「画面のプロパティ」ダイアログボックスで「OK」をクリックします。

6　接続したディスプレイの解像度と色数を設定します。

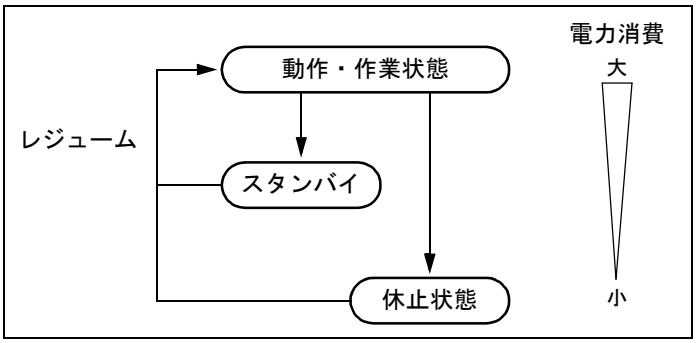
「互換性の警告」ダイアログボックスが表示された場合は、「新しい色の設定でコンピュータを再起動する」を選択し、「OK」をクリックしてください。

3 省電力

省電力について説明します。ご購入時、本パソコンは ACPI（Advanced Configuration and Power Interface）モードに設定されています。
ここでは、ACPI モードに関する留意事項と、スタンバイモードの変更方法（••▶ P.34）を説明します。

スタンバイと休止状態

「スタンバイ」または「休止状態」を使用することにより、Windows を終了することなく節電することができます。



- **スタンバイ**
  実行中のプログラムやデータを、システム RAM（メモリ）に保持してパソコンの動作を一時停止させます。スタンバイ中は、電源ランプまたはスリープランプがオレンジ色に点灯します（••▶『ハードウェアガイド』参照）。「休止状態」よりも短い時間で、一時停止や再開（レジューム）を行うことができます。スタンバイ中は、わずかに電力を消費していて、電源は AC 電源から供給されます。
- **休止状態**
  実行中のプログラムやデータを、ハードディスクに書き込んで保存し、パソコン本体の電源を切ります。電源を自動的に切るため、「スタンバイ」よりも一時停止／再開（レジューム）にかかる時間が長くなります。なお、休止状態に入るようにするには、「電源の管理のプロパティ」ダイアログボックスで設定する必要があります。

■ 留意事項

- パソコンをお使いの状況によっては、スタンバイや休止状態、レジュームに時間がかかる場合があります。
- スタンバイまたは休止状態にしたあと、すぐにレジュームしないでください。必ず、10 秒以上たってからレジュームするようにしてください。
- 電源スイッチなどで本パソコンをスタンバイにしても、まれにすぐにレジュームすることがあります。その場合には、いったんマウスを動かしてから、再びスタンバイにしてください。
- 接続している周辺機器のドライバが正しくインストールされていない場合、スタンバイや休止状態にならないことがあります。
- レジューム時に、一時的に画面が乱れる場合があります。
- 次の状態でスタンバイ状態に移行させると、スタンバイ状態および休止状態にならない／スタンバイ状態および休止状態からレジュームしない／レジューム後に正常に動作しない／データが消失する問題が発生することがあります。
  - ・OS の起動処理中または終了処理中
  - ・パソコンが何か処理をしている最中（プリンタ出力中など）、および処理完了直後
  - ・ファイルアクセス中（フロッピーディスク、ハードディスク、CD-ROM ドライブや光磁気ディスクドライブのアクセスランプが点灯中）
  - ・モデムやネットワークの通信中
  - ・オートラン CD-ROM（セットすると自動で始まる CD-ROM）を使用中
  - ・ビデオ CD や DVD-VIDEO などを再生中
  - ・音楽 CD やゲームソフトなどのサウンドを再生中
  - ・サウンドや動画の再生中（MIDI/WAVE/AVI/MPEG/DAT　形式のファイルの再生中や音楽 CD の再生中）
  - ・CD-R や CD-RW に書き込みまたは書き換え中
  - ・ドライバのインストールが必要な周辺機器を接続しているが、ドライバのインストールが終了していないとき
  - ・ネットワーク環境で TCP/IP プロトコル以外のプロトコルを使用中
  - ・マウスの操作中
  - ・ACPI に対応していない別売の機器（拡張カード、周辺機器）を増設している場合
- BIOS セットアップの省電力メニューの設定は、一部を除いて無効となります。各設定の詳細は、『ハードウェアガイド』をご覧ください。
- 周辺機器がACPIに対応している必要があります。ACPIに対応していない周辺機器を接続すると、周辺機器が使用できなくなる、またはスタンバイモードからレジュームできなくなる場合があります。事前に周辺機器が ACPI モードに対応しているかどうかを周辺機器のメーカーに確認してください。
  なお、最新ドライバに変更することで ACPI に対応できる周辺機器もあります。詳細は周辺機器のメーカーに確認してください。
- PCI 拡張カードを増設する場合は、その拡張カードおよびドライバが「IRQ シェアリング（割り込みの共有）」をサポートしている必要があります。増設する PCI カードが IRQ シェアリングをサポートしているかどうかは、各 PCI カードメーカーに確認してください。
- ネットワーク環境によっては、省電力機能を使用できない場合があります。
- CD-ROM 読み込み中にスタンバイや休止状態に移行すると、レジューム時にエラーメッセージが表示される場合があります。この場合は、【Enter】キーを押してください。

- MS-DOSプロンプトを全画面表示で使用しているときにスタンバイ状態に移行すると、スタンバイ状態からレジュームしたときに MS-DOS プロンプトの全画面表示が解除されていることがあります。
  この場合、タスクバーの「MS-DOS プロンプト」部分をクリックすると、MS-DOS プロンプトの全画面表示に戻ります。
- スクリーンセーバーの「3D 迷路」を使用する場合、「設定」で「全画面表示にする」のチェックを外してください。
- ハードディスクに必要な空き容量がない場合、スタンバイ状態および休止状態は使用できません。
- ネットワーク環境で LAN 着信によるレジューム（Wakeup on LAN 機能）を使用すると、ホストコンピュータまたは他のコンピュータからのアクセスにより、スタンバイまたは休止状態のコンピュータがレジュームする可能性があります。次の手順でタイマ値を設定することをお勧めします。なお設定値が 20 分より短いと、本パソコンがレジュームしてしまうことがあります。20 分以上の値に設定してください。
  1. 「スタート」ボタン→「設定」→「コントロールパネル」の順にクリックします。
     「コントロールパネル」ウィンドウが表示されます。
  2. 「電源の管理」アイコンをダブルクリックします。
     「電源の管理のプロパティ」ダイアログボックスが表示されます。
  3. 「電源設定」タブの「システムスタンバイ」および「システム休止状態」を「20 分後」以上に設定します。
- TCP/IPの設定でDHCPが有効の場合、スタンバイ時にDHCPサーバから割り当てられたIPアドレスのリース期限が切れたとき、パソコン本体がレジュームすることがあります。
  この場合は、DHCP サーバの IP アドレスのリース期間を延長するか、または DHCP の使用を中止し固定 IP をご使用ください。
- プリンタなどの周辺装置を接続した状態で休止状態にすると、レジューム時に周辺装置の情報が初期化されるため、中断する前の作業状態に戻らないことがあります。
- スタンバイ状態または休止状態へ移行させるときは、手動で（電源スイッチを押す、「スタート」ボタン→「Windows の終了」→「スタンバイ」または「休止状態」の順にクリックするなどの操作）スタンバイ状態にしないで、「電源設定」タブの「システムスタンバイ」または「システム休止状態」で移行するまでのアイドル時間（たとえば「30 分後」）を設定することをお勧めします。これにより、ファイルアクセス中や通信中などにスタンバイ状態および休止状態への移行を回避できます。
- スタンバイ状態へ移行する際、「デバイスのドライバが原因でスタンバイ状態に入れません。アプリケーションをすべて閉じてから、もう一度やり直してください。問題が解決しない場合は、そのドライバを更新することをお勧めします。」の警告ダイアログボックスが表示されて、スタンバイ状態へ移行できない場合があります。これは、プログラムが動作中でスタンバイに入れない状態を示します。スタンバイ状態へ移行させるためには、動作中のプログラムを終了させてください。
- ネットワーク環境下で省電力機能を使用する場合、次の条件下では、使用するプロトコルやアプリケーションによっては、不具合（スタンバイおよび休止状態からの復帰時に正常に通信できないなど）が発生することがあります。
  ・TCP/IP プロトコル以外のプロトコルを使用している場合
  ・ネットワーク環境で通信中に、手動（電源スイッチを押す、「スタート」ボタン→「Windows の終了」→「スタンバイ」の順にクリックする、などの操作）によりスタンバイおよび休止状態に移行した場合

・ネットワーク上でファイルの共有を設定し、手動（電源スイッチを押す、「スタート」ボタン→「Windows の終了」→「スタンバイ」または「休止状態」の順にクリックするなどの操作）によりスタンバイ状態へ移行したときに、次のメッセージが表示されて「はい」をクリックした場合

「このコンピュータに接続しているユーザーが次のファイルを開いています。

xxxxxx(¥¥yyyyy)

このまま続けるとファイルを閉じますが、ファイルを開いているユーザーはデータを失うかも知れません。続けますか？」

- 「電源の管理のプロパティ」ダイアログボックスにある「モニタの電源を切る」、「ハードディスクの電源を切る」の設定はネットワークに影響しません。
- 〔ML7〕の場合、スタンバイ状態からレジュームすると、画面が表示されないことがあります。この場合、キーボードから入力するか、マウスを動かすと表示されます。
- 省電力モードを「標準（ACPI S1）」に設定してお使いになる場合、PS/2 キーボードを使用して省電力から復帰すると、マウスやキーボードの入力が正常にできなくなる場合があります。この場合は、キーボード左側の【Shift】キーまたは【Ctrl】キーを一回押してください。なお本現象を回避するためには、省電力から復帰させるときに、マウスを使用するか、PS/2 キーボードの英数キーを押すようにしてください。

スタンバイ状態または休止状態からのレジューム

■ スタンバイ状態および休止状態からのレジューム条件

ACPI モードの標準（ACPI S1）／高度（ACPI S3）のスタンバイ状態および休止状態から、次の表で○になっているレジューム要因で通常の状態にレジュームさせることができます。

レジューム要因	ACPI モード標準（ACPI S1）	ACPI モード高度（ACPI S3）	休止状態
電源スイッチ※1	○	○	○
PS/2 キーボード、PS/2 マウス	○※6	×	×
USB キーボード、USB マウス	○	○（〔CX7〕のみ×）	×
時刻指定※2	○	○	○
LAN※3	○	○	○
モデム着信（Ring Indicator信号）※4	○	○	○
PCI 拡張カード（PME# 信号）※5	○	○	○

※1：「コントロールパネル」ウィンドウ－「電源の管理」－「詳細設定」タブの「電源ボタン」の「コンピュータの電源ボタンを押したとき」を「電源オフ」に設定した場合でも、電源スイッチを押すとスタンバイ状態からレジュームします。

※2：「タスク」を使用した場合

※3：「デバイスマネージャ」－「ネットワークアダプタ」－「Intel(R) PRO/100 VM Desktop Adapter」または「Realtek RTL8139 (A/B/C/8130) PCI Fast Ethernet NIC」または「Intel 8255x-based PCI Ethernet Adapter (10/100)」のプロパティの「電源の管理」タブの次の項目をチェックする必要があります。
・「節電のために、コンピュータでこのデバイスの電源をオフにできるようにする」
・「コンピュータのスタンバイ解除の管理をこのデバイスで行う」

※4：通信ソフトを起動し、着信待ち状態にしておく必要があります。

※5：PME# 信号をサポートした PCI 拡張カード（PCI Revision 2.2 規格に準拠）を搭載した場合

※6：省電力モードを「標準（ACPI S1）」に設定してお使いになる場合、PS/2 キーボードを使用して省電力から復帰すると、マウスやキーボードの入力が正常にできなくなる場合があります。
この場合は、キーボード左側の【Shift】キーまたは【Ctrl】キーを一回押してください。本現象を回避するためには、省電力から復帰させるときに、マウスを使用するか、PS/2 キーボードの英数キーを押すようにしてください。

ACPI のスタンバイモードを設定する

ACPI のスタンバイモードには、次の 2 種類があります。

- 高度（ACPI S3）…メモリ以外の装置の動作を停止します。標準（ACPI S1）と比較し、省電力に優れる一方で通常の状態へのレジュームには時間がかかります。
- 標準（ACPI S1）… CPU の動作を停止します。

ご購入時には、高度（ACPI S3）に設定されています。スタンバイモードを変更する方法は、次のとおりです。

POINT

- 増設する周辺機器は高度（ACPI S3）に対応している必要があります。
  対応していない場合は、標準（ACPI S1）に切り替えてお使いください。
- USB ハブ経由を含む USB 機器を使用する場合、高度（ACPI S3）のスタンバイ状態からのレジューム後に USB 機器が使用できなくなることがあります。その場合は、USB ハブとパソコン本体を接続している USB ケーブルをいったん抜き、再度差し込んでください。

■ スタンバイモードを高度から標準に変更する

□〔SL7e〕〔SL7〕〔CL7〕〔CL7s〕〔CX7〕の場合

1. 「ドライバーズ CD」をセットします。
2. 「スタート」ボタン→「ファイル名を指定して実行」の順にクリックし、「名前」に次のように入力し、「OK」をクリックします。
   msconfig
   「システム設定ユーティリティ」ダイアログボックスが表示されます。
3. 「詳細設定」をクリックします。
   「アドバンストラブルシューティングの設定」ダイアログボックスが表示されます。
4. 「DeepSleep を使用可能にする」のチェックボックスのチェックを外し、「OK」をクリックします。
5. 「OK」をクリックします。
6. 「スタート」ボタン→「ファイル名を指定して実行」の順にクリックし、「名前」に次のように入力し、「OK」をクリックします。
   [CD-ROMドライブ]:¥chgsmode¥chgsmode.exe
7. 「次の画面」をクリックします。
   「スタンバイモードの設定」ダイアログボックスが表示されます。
8. 「標準」をクリックし、「OK」をクリックします。
   再起動メッセージが表示されます。
9. 「OK」をクリックします。

□〔ML7〕の場合

BIOS セットアップで、次の設定を変更します。
●「Power」メニューー「ACPI S3」: Disabled

■ スタンバイモードを標準から高度に変更する

□〔SL7e〕〔SL7〕〔CL7〕の場合

BIOS セットアップで、次の設定を変更します。
●「省電力」メニューー「ACPI 設定」ー「スタンバイモード」: 高度
変更後、リカバリを実行してください。

□〔CL7s〕の場合

BIOS セットアップで、次の設定を変更します。
●「詳細」メニューー「省電力設定」ー「ACPI 設定」: 高度
変更後、リカバリを実行してください。

□〔ML7〕の場合

BIOS セットアップで、次の設定を変更します。
●「Power」メニューー「ACPI S3」: Enabled
変更後、リカバリを実行してください。

□〔CX7〕の場合

BIOS セットアップで、次の設定を変更します。
●「省電力」メニューー「スタンバイモード（ACPI)」: 高度
変更後、リカバリを実行してください。

省電力の設定

■「電源の管理のプロパティ」での設定

Windows の「コントロールパネル」ウィンドウの「電源の管理」で、本パソコンの電源を管理することができます。
また、「コントロールパネル」ウィンドウに「電源の管理」アイコンがない場合は、「すべてのコントロールパネルのオプションを表示する。」をクリックしてください。

■ 設定を変更する

□「電源設定」タブ

本パソコンの電源を入れた状態で一定時間使用しなかった場合に、省電力機能が働くまでの時間を設定します。
スタンバイするまでの時間は「システムスタンバイ」で設定してください。
「休止状態」タブで休止状態を選択した場合、休止状態までの時間は「システム休止状態」で設定してください。

□「詳細設定」タブ

電源スイッチを押したときの、パソコン本体の動作状態を設定します（ご購入時には、電源を切るように設定されています)。
次のように設定できます。

- 電源スイッチを押したときの状態：「コンピュータの電源ボタンを押したとき」
- スタンバイからレジュームするときにパスワードの入力を求めるメッセージを表示させる：「スタンバイおよび休止状態からの回復時にパスワードを入力する」

□「休止状態」タブ

本パソコンを一時停止するときに、メモリ内のデータなどの保存先をハードディスクに変更するかどうかを設定します。
「休止状態」タブの「休止状態をサポートする」をクリックして☑にすると、「詳細設定」タブの「電源ボタン」の各項目で「休止状態」が選択できるようになります。

第 3 章

リカバリと再インストール

本パソコンをご購入時の状態に戻す「リカバリ」とソフトウェアの「再インストール」について説明しています。

1　リカバリ概要 38
2　リカバリ操作 41
3　ソフトウェアの再インストール 49

1　リカバリ概要

Windows が起動しないなどの問題が発生した場合、またはハードディスクの領域を変更したい場合は、リカバリを行います。

リカバリの概要

リカバリとは、「リカバリ CD-ROM」と「リカバリ CD-ROM 起動ディスク」（外付け CD-ROM ドライブをお使いの場合）を使用して、OS、ドライバなどのプレインストールソフトウェアをご購入時の状態（「プレインストール仕様の確認」（••▶ P.13））に戻す操作です。

リカバリは、大きく 2 種類に分かれます。

- ご購入時の状態に戻す
  現在のハードディスクの領域設定はそのままで、C ドライブをご購入時の状態に戻します。
- 領域を設定したあと、ご購入時の状態に戻す
  ハードディスクの領域を設定したあと、ご購入時の状態に戻します。
  現在のハードディスク領域を変更したいとき、またはハードディスクを増設したときには、領域設定が必要になります。

ハードディスク領域の概要

ハードディスク領域の概要を説明します。

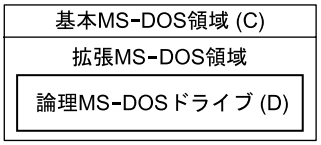
■ 基本 MS-DOS 領域と拡張 MS-DOS 領域

ハードディスク領域には、次の 2 種類があります。

- **基本 MS-DOS 領域**
  OS をインストールするために必要な領域です。プライマリマスターに接続されたハードディスク（1 台目のハードディスク）の基本 MS-DOS 領域は、起動ドライブ（C ドライブ）になります。プライマリマスター以外に接続されたハードディスク（増設したハードディスク）の場合は、基本 MS-DOS 領域の作成は必須ではありません。
- **拡張 MS-DOS 領域**
  アプリケーションやデータを格納するための領域です。基本 MS-DOS 領域を設定している場合は、残りの領域すべてが拡張 MS-DOS 領域になります。増設したハードディスクの場合は、ハードディスク全体を拡張 MS-DOS 領域にできます。
  拡張 MS-DOS 領域内には、論理 MS-DOS ドライブを作成する必要があります。論理 MS-DOS ドライブを作成することで、拡張 MS-DOS 領域にドライブ名（D、E、F …）が割りふられます。論理 MS-DOS ドライブは複数（最高 23 個）作成できます。

POINT

- 本パソコンご購入時にはプライマリマスターのハードディスクに、基本 MS-DOS 領域と拡張 MS-DOS 領域が設定され、拡張 MS-DOS 領域全体が 1 つの論理 MS-DOS ドライブに設定されています。



■ FAT16 と FAT32

ハードディスクの領域を設定する場合に、ファイルの管理形式として FAT16 または FAT32 のどちらかを選択できます。

FAT16 は最大 2GB までしかドライブを管理できません。そのため、2GB を超える領域を作成したい場合は FAT32 を使用します。しかし、FAT32 をサポートしていない OS（MS-DOS や Windows NT 4.0 など）から FAT32 でフォーマットしたハードディスクを認識できません。このため、MS-DOS で作成された起動フロッピーからインストールを行うアプリケーションの場合、インストールに失敗するなどの問題が発生することがあります。

POINT

- リカバリは、FAT16、FAT32 のいずれのファイルシステムに対しても実行できます。

リカバリの手順

リカバリは次の手順で行います。

■ ご購入時の状態に戻す場合

ハードディスクの領域設定は現在お使いの状態のまま、C ドライブのみをリカバリします。

POINT

- FDISK で領域設定を行ったあと、ご購入時の状態に戻すこともできます。FDISK を使用すると、1MB 単位で 3 区画以上の領域を設定できます。

1 リカバリ前の準備（••▶ P.41）

2 リカバリ方法（ご購入時の状態に戻す）

内蔵 CD-ROM ドライブをお使いの場合（••▶ P.41）

外付け CD-ROM ドライブをお使いの場合（••▶ P.42）

3 リカバリ終了後（••▶ P.46）

■ 領域を設定したあと、ご購入時の状態に戻す場合

リカバリ中に画面上で確認しながら、ハードディスクの領域を再設定します。
100MB 単位で 2 区画まで設定できます。

1 リカバリ前の準備（••▶ P.41）

2 リカバリ方法（領域を設定したあと、ご購入時の状態に戻す）
内蔵 CD-ROM ドライブをお使いの場合（••▶ P.43）
外付け CD-ROM ドライブをお使いの場合（••▶ P.45）

3 リカバリ終了後（••▶ P.46）

留意事項

■ リカバリを行う場合の一般的な留意事項

- 区画の再設定を行うことにより、ハードディスクの内容が消えてしまうことがあります。あらかじめ必要なデータはバックアップしておいてください。
- リカバリを行うと、C ドライブのファイルはすべて削除されます。必要に応じて事前にバックアップを行ってください。
- 周辺機器を取り付けている場合は、それらをいったん取り外し、ご購入時の状態に戻してください。
- 内蔵 CD-ROM ドライブ以外をお使いの場合は、あらかじめ SCSI 規格の外付け CD-ROM（別売）などをご用意ください。
- USBキーボード（FMV-KB331/331S/332）をお使いになる場合は、BIOSセットアップ（••▶『ハードウェアガイド』参照）で USB キーボードを使用可能に設定してからリカバリを行ってください。
  なお、USB キーボードは本体の USB コネクタに直接、接続してお使いください（USB ハブなどをパソコンとキーボードの間に接続しないでください）。
- カスタムメイドオプションのアプリケーションはリカバリされません。

■ ハードディスクの領域を設定するうえでの留意事項

ハードディスクの領域を設定する前にお読みください。

- 領域を削除したり容量を変更したりすると、領域内のファイルはすべて削除されます。必要に応じて事前にバックアップをとってください。
- 基本 MS-DOS 領域は、リカバリに必要な領域（最低 1GB）に設定してください。

2　リカバリ操作

本パソコンをご購入時の状態に戻す「リカバリ」の方法を説明します。

POINT

- リカバリに関する留意事項（••▶ P.40）をよくお読みのうえ、リカバリを行ってください。

リカバリ前の準備

リカバリを実行する前に、次の操作を行ってください。

■ 外付け CD-ROM ドライブをお使いの場合

1. リカバリ CD-ROM 起動ディスクを準備します（••▶ P.10）。
2. 本パソコンに CD-ROM ドライブを接続します。

■ BIOS 設定について

BIOS の設定をご購入時の設定に戻します（••▶『ハードウェアガイド』参照）。

POINT

- BIOS セットアップの設定をご購入時と異なる設定にしていると、インストール時にエラーメッセージが表示されることがあります。

リカバリ方法（ご購入時の状態に戻す）

本パソコンをご購入時の状態に戻します。ハードディスクの領域は変更されません。
FDISK で領域設定を行ったあと、ご購入時の状態に戻すこともできます。FDISK を使用すると、1MB 単位で 3 区画以上の領域を設定できます（••▶ P.46）。

POINT

- リカバリを行うと、C ドライブのファイルはすべて削除されます。必要に応じて事前にバックアップを行ってください。
- リカバリの所要時間は、10 分程度です。

■ 内蔵 CD-ROM ドライブをお使いの場合

次のものを用意してください。

- 「リカバリ CD-ROM」

1. 「リカバリ CD-ROM」をセットします。
2. 本パソコンを再起動します。

3 「FUJITSU」ロゴの下に文字が表示されたら、すぐに【F12】キーを押し続けます。
メニューが表示されます。

4 CD-ROM ドライブを選択し、【Enter】キーを押します。
「FMV リカバリ CD-ROM」画面が表示されます。

5 【Page Up】【Page Down】キーで説明をスクロールして内容を確認し、【Y】キーを押します。

6 「ご購入時の状態に戻す（推奨）」が反転表示されていることを確認して【Enter】キーを押します。
確認の画面が表示されます。

7 【Y】キーを押します。
しばらくすると「NORTON Ghost™」の画面が表示され、ファイルのコピーが始まります。リカバリが終了すると「正常にソフトウェアの復元作業が行われました」と表示されます。

8 CD-ROM を取り出してから、本パソコンの電源を切ります。

9 以降、「リカバリ終了後」を参照して操作を行ってください（••▶ P.46）。

■ 外付け CD-ROM ドライブをお使いの場合

次のものを用意してください。

- 「リカバリ CD-ROM」
- 準備した「リカバリ CD-ROM 起動ディスク」（••▶ P.10）

1 「リカバリ CD-ROM 起動ディスク」をセットします。

2 本パソコンを再起動します。

3 「CD-ROM ドライブに「リカバリ CD-ROM」をセットしてください。」と表示されたら、「リカバリ CD-ROM」をセットし、何かキーを押します。
「FMV リカバリ CD-ROM」画面が表示されます。

4 【Page Up】【Page Down】キーで説明をスクロールして内容を確認し、【Y】キーを押します。

5 「ご購入時の状態に戻す（推奨）」が反転表示されていることを確認して【Enter】キーを押します。
確認の画面が表示されます。

6 【Y】キーを押します。
しばらくすると「NORTON Ghost™」の画面が表示され、ファイルのコピーが始まります。リカバリが終了すると「正常にソフトウェアの復元作業が行われました」と表示されます。

7 フロッピーディスクとCD-ROMを取り出してから、本パソコンの電源を切ります。

8 以降、「リカバリ終了後」を参照して操作を行ってください（••▶ P.46）。

リカバリ方法（領域を設定したあと、ご購入時の状態に戻す）

ハードディスクの領域を設定したあと、ご購入時の状態に戻します。
リカバリ中に画面で確認しながら、100MB 単位で 2 区画までの領域を設定できます。

重 要

- 区画の設定を行うことにより、ハードディスクの内容が消えてしまうことがあります。あらかじめ必要なデータはバックアップしておいてください。
- リカバリ中に区画を作成する場合、100MB 単位で 2 区画までしか作成できません。3 区画以上を作成する場合、または 1MB 単位で区画を作成する場合は、FDISK を使用してください。

■ 内蔵 CD-ROM ドライブをお使いの場合

次のものを用意してください。
●「リカバリ CD-ROM」

1 「リカバリ CD-ROM」をセットします。

2 本パソコンを再起動します。

3 「FUJITSU」ロゴの下に文字が表示されたら、すぐに【F12】キーを押し続けます。
メニューが表示されます。

4 CD-ROM ドライブを選択し、【Enter】キーを押します。
「FMV リカバリ CD-ROM」画面が表示されます。

5 【Page　Up】【Page　Down】キーで説明をスクロールして内容を確認し、【Y】キーを押します。

6 「領域を設定したあと、ご購入時の状態に戻す」を選択し、【Enter】キーを押します。

7 領域の設定方法により、次の操作のどちらかを行います。

POINT

- 領域を変更すると、ハードディスク内のすべてのデータが失われます。

・「領域を任意に設定して戻す」を選択し、【Enter】キーを押します。
C ドライブの容量を任意に設定してください。【←】【→】キーを押すと、100MB 単位で、領域を設定できます。
その他の設定については、次を参考にしてください。
・C ドライブを FAT16 で使用する
C ドライブを FAT16 または FAT32 に切り替えることができます（••▶ P.39）。
切り替えるには【F】キーを押し、項目のチェックマークを確認します。
・ハードディスクを 1 つの区画として設定する
ハードディスク全体を C ドライブとして設定するかどうか切り替えることができます。
切り替えるには【P】キーを押し、項目のチェックマークを確認します。
領域を設定したら、【Enter】キーを押します。
・「領域をご購入時の状態にして戻す」を選択し、【Enter】キーを押します。
ハードディスク内の領域が、ご購入時の設定となります。

8 【Y】キーを押します。
領域の設定が行われ、再起動メッセージが表示されます。

9 【Enter】キーを押します。
本パソコンが再起動します。

10 「FUJITSU」ロゴの下に文字が表示されたら、すぐに【F12】キーを押し続けます。
メニューが表示されます。

11 CD-ROM ドライブを選択し、【Enter】キーを押します。
しばらくすると「NORTON Ghost™ の画面が表示され、ファイルのコピーが始まります。
リカバリが終了すると「正常にソフトウェアの復元作業が行われました」と表示されます。

12 CD-ROM を取り出してから、本パソコンの電源を切ります。

13 以降、「リカバリ終了後」を参照して操作を行ってください（••▶ P.46）。

■ 外付け CD-ROM ドライブをお使いの場合

次のものを用意してください。

- 「リカバリ CD-ROM」
- 準備した「リカバリ CD-ROM 起動ディスク」（••▶ P.10）

1 「リカバリ CD-ROM 起動ディスク」をセットします。

2 本パソコンを再起動します。

3 「CD-ROM ドライブに「リカバリ CD-ROM」をセットしてください。」と表示されたら、「リカバリ CD-ROM」をセットし、何かキーを押します。
「FMV リカバリ CD-ROM」画面が表示されます。

4 【Page Up】【Page Down】キーで説明をスクロールして内容を確認し、【Y】キーを押します。

5 「領域を設定したあと、ご購入時の状態に戻す」を選択し、【Enter】キーを押します。

6 領域の設定方法により、次の操作のどちらかを行います。

POINT

- 領域を変更すると、ハードディスク内のすべてのデータが失われます。

・「領域を任意に設定して戻す」を選択し、【Enter】キーを押します。
C ドライブの容量を任意に設定してください。【←】【→】キーを押すと、100MB 単位で、領域を設定できます。
その他の設定については、次を参考にしてください。
　・C ドライブを FAT16 で使用する
　C ドライブを FAT16 または FAT32 に切り替えることができます（••▶ P.39）。
　切り替えるには【F】キーを押し、項目のチェックマークを確認します。
　・ハードディスクを 1 つの区画として設定する
　ハードディスク全体を C ドライブとして設定するかどうか切り替えることができます。
　切り替えるには【P】キーを押し、項目のチェックマークを確認します。
領域を設定したら、【Enter】キーを押します。
・「領域をご購入時の状態にして戻す」を選択し、【Enter】キーを押します。
ハードディスク内の領域が、ご購入時の設定となります。

7 【Y】キーを押します。
領域の設定が行われ、再起動メッセージが表示されます。

8 【Enter】キーを押します。
本パソコンが再起動します。

9 「CD-ROM ドライブに「リカバリ CD-ROM」をセットしてください。」と表示されたら、「リカバリ CD-ROM」をセットし、何かキーを押します。
しばらくすると「NORTON Ghost™」の画面が表示され、ファイルのコピーが始まります。リカバリが終了すると「正常にソフトウェアの復元作業が行われました」と表示されます。

10 フロッピーディスクと CD-ROM を取り出してから、本パソコンの電源を切ります。

11 以降、「リカバリ終了後」を参照して操作を行ってください（••▶ P.46）。

リカバリ終了後

本パソコンの電源を切ったあと、以下の操作を行ってください。

1 周辺機器が取り付けられている場合は、すべて取り外します（カスタムメイドオプションを除く）。

2 本パソコンの電源を入れます。

3 以降、第 1 章を参照して Windows のセットアップを行ってください（••▶ P.8）。

セットアップ後、必要に応じてソフトウェアをアンインストールしてください（••▶ P.21）。
また、必要に応じてドライバ、添付アプリケーションまたはカスタムメイドオプションのアプリケーションをインストールします。

FDISK で領域を設定する

領域を 3 区画以上作成する場合、または 1MB 単位で区画を作成する場合は、FDISK コマンドを使用します。
手順の流れを確認後、FDISK を起動してください。

■ 手順の流れ

1 FDISK で必要に応じて領域を削除する
削除は次の順番で行います。

1. 拡張 MS-DOS 領域内の論理 MS-DOS ドライブの削除
2. 拡張 MS-DOS 領域の削除
3. 基本 MS-DOS 領域の削除

POINT

- 領域を削除したり容量を変更したりすると、領域内のファイルはすべて削除されます。必要に応じて事前にバックアップをとってください。

2 FDISK で領域を作成する
削除と逆の順番で行います。

3 ドライブをフォーマットする

リカバリを行うドライブは、リカバリ中にフォーマットされますので、フォーマットの必要はありません。

■ FDISK の起動方法と概要

FDISK は、次の手順で起動してください。なお、Windows がインストールされている環境で増設ハードディスクの領域を設定する場合は、Windows の MS-DOS プロンプトで「fdisk」と入力し、【Enter】キーを押してください。

1 次の操作を行います。

・内蔵 CD-ROM ドライブをお使いの場合

「リカバリ CD-ROM」をセットします。

・外付け CD-ROM ドライブをお使いの場合

「リカバリ CD-ROM 起動ディスク」をセットします。

2 本パソコンを再起動します。

3 次の操作を行います。

・内蔵 CD-ROM ドライブをお使いの場合

1.「FUJITSU」ロゴの下に文字が表示されたら、すぐに【F12】キーを押し続けます。メニューが表示されます。
2. CD-ROM ドライブを選択し、【Enter】キーを押します。

・外付け CD-ROM ドライブをお使いの場合

「CD-ROM ドライブに「リカバリ CD-ROM」をセットしてください。」と表示されたら、「リカバリ CD-ROM」をセットし、何かキーを押します。

4 「FMV リカバリ CD-ROM」画面が表示されたら、【N】キーを押します。

コマンドプロンプトが表示されます。

5 次のように入力して、【Enter】キーを押します。

```
fdisk
```

「大容量のディスクのサポートを可能にしますか」と表示されます。

6 FAT16 で設定する場合は【N】キー、FAT32 で設定する場合は【Y】キーを押し、【Enter】キーを押します。

「FDISK オプション」が表示されます。

7 次の説明と画面のメッセージを参照し、領域を設定します。

・MS-DOS 領域または論理 MS-DOS ドライブを作成

基本 MS-DOS 領域、拡張 MS-DOS 領域、拡張 MS-DOS 領域内に論理 MS-DOS ドライブを作成する場合に選択します。

・アクティブな領域を設定

基本 MS-DOS 領域をアクティブ（領域に OS をインストールしたら起動できる状態）にする場合に選択します。なお、基本 MS-DOS 領域に使用できる最大サイズを割り当てた場合は、自動的にアクティブに設定されます。アクティブな領域は、「状態」に「A」と表示されます。

重 要

- 基本 MS-DOS 領域（領域 C）をアクティブに設定しないと、ハードディスクから起動できません。基本 MS-DOS 領域は、必ずアクティブに設定してください。

・**領域または論理 MS-DOS ドライブを削除**
すでに設定されている基本 MS-DOS 領域、拡張 MS-DOS 領域、拡張 MS-DOS 領域内の論理 MS-DOS ドライブを削除する場合に選択します。
・**領域情報を表示**
現在の設定を確認する場合に選択します。
・**現在のハードディスクドライブを変更（ハードディスクを増設している場合に表示されます）**
FDISK を起動すると、プライマリマスターのハードディスクを設定できる状態になります。これを増設したハードディスクに切り換える場合に選択します。

8　設定終了後、変更を有効にするためには、本パソコンを再起動します。

再起動後、続けてリカバリを行う場合は、「リカバリ方法（ご購入時の状態に戻す）」を参照して手順 2 以降の操作を行ってください（••▶ P.41）。

3 ソフトウェアの再インストール

一部のドライバおよびアプリケーションの再インストール方法を説明します。

重要

- 添付の「ドライバーズ CD」には、機種によっては使用できないソフトウェアも含まれています。本書を参照し、正しいソフトウェアを使用してください。誤ったソフトウェアをインストールした場合、本パソコンが正しく動作しなくなり、リカバリが必要となることがあります。
  なお、「ドライバーズ CD」の Indexcd.htm もご覧ください。「ドライバーズ CD」内の内容と適応機種が一覧になっています。

ドライバの再インストール

リカバリ後、ドライバを再インストールする必要はありません。何らかの理由でドライバの再インストールが必要な場合のみ、必要なドライバを再インストールしてください。
ドライバのインストールは、それぞれのドライバのインストール手順をご覧ください。
インストール手順は「ドライバーズ CD」内の次の場所にあります。

ドライバ	機種	インストール手順の保存場所とファイル名
IDE ドライバ	〔SL7〕〔CL7〕	¥Ide¥Install.txt
ディスプレイドライバ	〔SL7e〕	¥Ati128¥install.txt
	〔SL7〕〔CL7〕〔ML7〕〔CX7〕	¥I81x¥install.txt
	〔CL7s〕	¥Kl133¥install.txt
サウンドドライバ	〔SL7e〕〔SL7〕〔CL7〕〔CL7s〕	¥Cs4299¥install.txt
	〔ML7〕	¥Soundmax¥install.txt
	〔CX7〕	¥Cs4281¥Install.txt
LAN ドライバ	〔SL7e〕〔SL7〕〔CL7〕〔CX7〕	¥Lan8255x¥install.txt
	〔CL7s〕〔ML7〕	¥Realtek¥install.txt
スマートカードドライバ※	〔SL7e〕〔SL7〕〔CL7〕	¥Smart¥Readme (WinMe).txt

※：カスタムメイドオプションでスマートカードリーダを選択している場合

この表以外のドライバについては、「ドライバーズ CD」内の「Indexcd.htm」で該当するドライバのフォルダ名称を確認し、フォルダ内の Readme.txt または Install.txt などをご覧ください。
カスタムメイドオプションで SCSI カードを選択している場合は、Windows 標準のドライバをお使いください。

プレインストールソフトの再インストール

ここでは、ご購入時にインストールされているソフトウェアのインストール方法について記述しています。アンインストールしたソフトウェアを再度インストールする場合のみ、次の方法でインストールしてください。

POINT

- カスタムメイドオプションのアプリケーションをインストールする方法は、各アプリケーションのマニュアルをご覧ください。

■ Windows 環境調査ツール（FM Advisor）のインストール

1. 「ドライバーズ CD」をセットします。
2. 「スタート」ボタン→「ファイル名を指定して実行」の順にクリックします。
3. 「名前」に次のように入力し、「OK」をクリックします。
   [CD-ROMドライブ]:¥advisor¥setup.exe

このあとは、メッセージに従って操作します。

■ Acrobat Reader のインストール

1. 「ドライバーズ CD」をセットします。
2. 「スタート」ボタン→「ファイル名を指定して実行」の順にクリックします。
3. 「名前」に次のように入力し、「OK」をクリックします。
   [CD-ROMドライブ]:¥acrobat¥ar405jpn.exe

このあとは、メッセージに従って操作します。

4. 本パソコンを再起動します。

■ FMV 診断のインストール

1. 「ドライバーズ CD」をセットします。
2. 「スタート」ボタン→「ファイル名を指定して実行」の順にクリックします。
3. 「名前」に次のように入力し、「OK」をクリックします。
   [CD-ROMドライブ]:¥shindan¥fmv505b¥disk1¥setup.exe

このあとは、メッセージに従って操作します。

■ FM 一発修正のインストール

1 「ドライバーズ CD」をセットします。

2 「スタート」ボタン→「ファイル名を指定して実行」の順にクリックします。

3 「名前」に次のように入力し、「OK」をクリックします。

[CD-ROMドライブ]:¥fmcure¥setup.exe

このあとは、メッセージに従って操作します。

Memo

第 4 章

困ったときに

4

おかしいなと思ったときや、わからないことがあったときの対処方法について説明しています。

1　こんなときには 54
2　それでも解決できないときは 60
3　その他の留意事項 63

1　こんなときには

ここでは、Windows の使用時に直面する問題について、Q&A 形式でまとめています。
また、トラブルが発生したときや困ったときの参照先を説明しています。

トラブル発生時の参照先

■ Windows に関して

添付の Windows のマニュアルか、「スタート」メニューに登録されているオンラインヘルプをご覧ください。

■ ハードウェアに関して

『ハードウェアガイド』をご覧ください。

トラブルシューティング

□オンラインヘルプやエラーメッセージの対処方法を参照しても原因がわからない

- 本パソコンでは、次のパソコン診断アプリケーションを用意しています。

  FM Advisor

  FM Advisor の使用方法は、次のとおりです。

  1. 「スタート」ボタン→「プログラム」→「FM Advisor」→「FM Advisor」の順にクリックします。
     調査結果が表示されます。

  FMV 診断

  FMV 診断の使用方法は次のとおりです。

  1. 「スタート」ボタン→「FMV 診断」の順にクリックします。
     このあとはメッセージに従って操作してください。

POINT

- 起動中のアプリケーションや常駐プログラムはすべて終了してください。
- スクリーンセーバーは「なし」に設定してください。
- フロッピーディスクドライブを診断する場合は、フォーマット済みのフロッピーディスクをセットしてください。
- CD-ROM ドライブを診断する場合は、お手持ちの CD-ROM をセットしてください。

□画面の文字やウィンドウのボタンが正しく表示されない、フォントがインストールできない、ネットワークプロトコルが追加できない

●「FM 一発修正」を使用してください。

1. すべてのアプリケーションを終了します。
2. 「スタート」ボタン→「ファイル名を指定して実行」の順にクリックします。
3. 「名前」に次のように入力し、「OK」をクリックします。

   c:¥fjuty¥fmcure¥fmcure.exe

□Windows が起動しなくなった

●「ドライバース CD」に入っている「QT-PC/U」という診断プログラムでパソコンの診断をしてください。

診断後にエラーコードが表示された場合は、メモなどに控えておき、お問い合わせの際にお知らせください。

診断時間は通常 5 ～ 10 分程度ですが、診断するパソコンの環境によっては長時間かかる場合があります。

POINT

▶ 「QT-PC/U」によるパソコンの診断は、内蔵 CD-ROM ドライブから実行できます。外付け CD-ROM ドライブからは、実行できません。

1. 「ドライバース CD」をセットします。
2. 本パソコンの電源を一度切り、再び電源を入れます。
3. 「FUJITSU」ロゴの下に文字が表示されたら、すぐに【F12】キーを押し続けます。
   メニューが表示されます。
4. CD-ROM を選択し、【Enter】キーを押します。
   自動的に診断が開始されます。診断は 6 項目について行われ、各項目の診断結果が画面の「STATUS」の部分に表示されます。
   ・診断でエラーが発生した場合は、「STATUS」部に「ERROR」と表示され、画面の「Message Display」部に 8 桁のエラーコードが表示されます。
   お問い合わせの際は、表示されたエラーコードをお知らせください。
   ・診断でエラーが発生しなかった場合は、「STATUS」部に「NO ERROR」と表示されます。
5. 診断が終了し、画面の「Message Display」部に次のように表示されたら、CD-ROM を取り出します。

   Eject CD-ROM.

   Press Ctrl + ALT + DEL for power off
6. 【Ctrl】＋【Alt】＋【Delete】キーを押します。
7. 次のように表示されたら、【Enter】キーを押します。

   [Ctrl+ALT+DEL Push] -> Power off execute ok (ENTER)?

   約 5 秒後に電源が切れます。
   ただし、機種によっては次のように表示され、自動的に電源が切れない場合があります。

   Please power off manually

   この場合は、パソコン本体の電源を切ってください。

● **上記の操作でエラーが発生しなかった場合は、「リカバリと再インストール」（••▶ P.37）をご覧になり、本パソコンをご購入時の状態に戻してください。**

それでも解決しない場合は、「富士通パーソナル製品に関するお問合せ窓口」またはご購入元にご連絡ください。

□プログラム実行中に Windows 上のすべてのものが動かなくなってしまった

● 次の手順で Windows を終了させてください。

1. 【Ctrl】+【Alt】+【Delete】キーを押します。
   「プログラムの強制終了」ウィンドウが表示されます。
2. 動かなくなったプログラムを選択し、「終了」をクリックします。
   プログラムが強制終了します。
   もし上記の操作で強制終了できないときは、【Ctrl】+【Alt】+【Delete】キーを押す操作を 2 回繰り返して、Windows を強制的に再起動してください。
   この方法で再起動できないときは、電源スイッチを 4 秒以上押して電源を切り、10 秒以上待ってから電源を入れてください。

POINT

- プログラムを強制終了したり、本パソコンを再起動したり、強制的に電源を切った場合には、プログラムでの作業内容を保存することはできません。
- プログラムを強制終了したり、本パソコンを強制的に再起動したり、強制的に電源を切った場合は、「スキャンディスク」を実行することをお勧めします。
  「スタート」ボタン→「プログラム」→「アクセサリ」→「システムツール」→「スキャンディスク」の順にクリックしてください。
  スキャンディスクを実行した結果、エラーがない場合はそのままお使いください。エラーが表示されたときは、メッセージに従って修復してください。ただし、修復してもトラブルが発生する可能性があります。トラブルが頻繁に発生する場合は、リカバリしてください（••▶ P.38）。

□マウスが使えないため、Windows を終了できない

● キーボードを使って Windows を終了させることができます。

1. 【Windows】キーまたは【Ctrl】+【Esc】キーを押します。
   「スタート」メニューが表示されます。
2. 「Windows の終了」を選択し【Enter】キーを押します。
   「Windows の終了」ダイアログボックスが表示されます。
3. 「終了」を選択し、【Enter】キーを押します。
   Windows が終了します。

マウスが故障している場合は、「富士通パーソナル製品に関するお問合せ窓口」またはご購入元に連絡してください。

□PC カードが使えない〔CX7〕

● PC カードのドライバはインストールされていますか？

PC カードに Windows 対応のドライバが添付されている場合、ドライバをインストールする必要があります。PC カードに添付のマニュアルをご覧ください。

● IRQ リソースは足りていますか？

IRQ リソースが不足する場合があります。次の操作を行ってください。

1. お使いにならないデバイス（プリンタなら「パラレルポート」など）を BIOS セットアップで「使用しない」にします（••▶『ハードウェアガイド』参照）。
2. 「マイコンピュータ」アイコンを右クリックし、「プロパティ」をクリックします。
3. 「デバイスマネージャ」タブをクリックします。
4. お使いにならないデバイス（プリンタなど）をダブルクリックします。
5. 「全般」タブの「このハードウェアプロファイルで使用不可にする」をチェックし、「OK」をクリックします。

6. ダイアログボックスを閉じます。

□ディスプレイドライバ、サウンドドライバ、LAN ドライバが正しく動作しない

● **Windows の画面が正常に表示されない場合は、Safe モードで起動し、ディスプレイドライバを変更してください。**

手順は次のとおりです。

1. 本パソコンの電源を入れます。
2. 「FUJITSU」ロゴが表示されたら、【Ctrl】キーを押し続けます。
   「Microsoft Windows Millennium Startup Menu」が表示されます。
3. 「3. Safe mode」を選択し【Enter】キーを押します。
   「ヘルプとサポート」の画面が表示されます。
   画面の指示に従って問題を解決してください。

問題が解決しないときは、「ヘルプとサポート」を終了し、次の操作を行ってください。

1. デスクトップで右クリックし、「プロパティ」をクリックします。
   「画面のプロパティ」ダイアログボックスが表示されます。
2. 「設定」タブの「詳細」をクリックします。
   「(不明なデバイス) のプロパティ」ダイアログボックスが表示されます。
3. 「アダプタ」タブの「変更」をクリックします。
   「デバイスドライバの更新ウィザード」ダイアログボックスが表示されます。
4. 「ドライバの場所を指定する ...」を選択し、「次へ」をクリックします。
5. 「特定の場所にある ...」を選択し、「次へ」をクリックします。
6. 一覧から「ディスプレイアダプタ」を選択し、「次へ」をクリックします。
7. 「製造元」を「(標準ディスプレイ)」に、「モデル」を「標準 PCI グラフィックアダプタ (VGA)」に設定し、「次へ」をクリックします。
   「ドライバ更新の警告」ダイアログボックスが表示されます。
8. 「はい」をクリックします。
   「デバイス用のドライバファイルの検索：」と表示されます。
9. 「次へ」をクリックします。
10. 「完了」をクリックします。

再起動メッセージが表示されたら、「はい」をクリックし、本パソコンを再起動します。

このあと、ディスプレイドライバをインストールしてください（••▶ P.49）。

POINT

- 再起動後に、「ディスプレイに問題があります。」と表示されたときは、「画面のプロパティ」ダイアログボックスで色数を 16 色に設定し、本パソコンを再起動してください。
- 「OK をクリックするとハードウェアウィザードが始まります。」と表示されたときは、必ず「キャンセル」をクリックしてください。

● **サウンドまたは LAN の動作に問題がある場合は、各ドライバをインストールし直す必要があります。**

お使いの機種に対応する各ドライバは、「デバイス一覧」（••▶ P.15）でご確認ください。インストール方法については、「ドライバの再インストール」（••▶ P.49）をご覧ください。

□「システムのプロパティ」ダイアログボックスの「デバイスマネージャ」タブで、緑色のクエスチョンマークがついている項目がある

● **OS 標準のドライバが使用されている場合に表示されます。そのままお使いいただいても問題はありません。**

□「Windows の終了」メニューから、「スタンバイ」および「休止状態」が消えてしまった

● **次の点を確認してください。**

「Windows の終了」ダイアログボックスの終了メニューから、「スタンバイ」および「休止状態」の項目がなくなり、省電力機能が働かなくなることがあります。この問題は、次の理由で発生します。

・起動時に「電源の管理」ダイアログボックスが表示されたとき、「はい」をクリックした
・何回か連続して、省電力状態のときに、コンピュータが応答しなくなった

Windows Me は、省電力機能が正常に動作したかを監視しています。何回か連続してスタンバイおよび休止状態に失敗すると、実行方法を内部的に変更したり、使用不可に設定して、同じ問題が繰り返し起きないようにします。Windows Me によって使用不可に設定された場合、次の現象が発生します。

・「Windows の終了」ダイアログボックスの終了メニューに、「スタンバイ」および「休止状態」の項目が表示されない
・「コントロールパネル」→「電源の管理」の「電源設定」タブで、「システムスタンバイ」および「システム休止状態」設定が表示されない
・キーボードのスタンバイボタンなどを押しても、省電力状態にならない

次の手順で、スタンバイ機能および休止状態が使用できます。

1. 「スタート」ボタン→「ファイル名を指定して実行」の順にクリックします。
2. 「名前」に次のように入力し、「OK」をクリックします。
   ```
   msconfig
   ```
   「システム設定ユーティリティ」ウィンドウが表示されます。
3. 「詳細設定」をクリックします。
   「アドバンストラブルシューティングの設定」ダイアログボックスが表示されます。
4. 「スタンバイ機能は使用不可です」または「休止機能は使用不可です」と表示されている場合は、右側にある「使用可能にする」をクリックします。
5. 「OK」をクリックします。
6. 「システム設定ユーティリティ」ウィンドウの「OK」をクリックします。
   「システム設定の変更」ダイアログボックスが表示されます。
7. 「OK」をクリックして、本パソコンを再起動させてください。

□ リカバリ後、ディスプレイドライバをインストールし直してもディスプレイが自動的に設定されない

- 次の手順で設定し直してください。

1. デスクトップで右クリックし、「プロパティ」をクリックします。
   「画面のプロパティ」ダイアログボックスが表示されます。
2. 「設定」タブの「詳細」をクリックします。
3. 「モニタ」タブの「変更」をクリックします。
   あとは次のポイントをご覧になり、メッセージに従って操作してください。

POINT

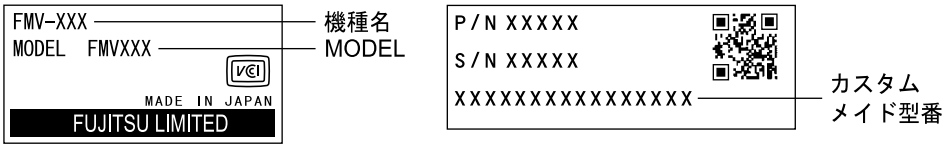
- 「デバイスドライバの更新ウィザード」では、「ドライバの場所を指定する」→「次へ」、「特定の場所にある ...」→「次へ」をクリックしてください。
- 富士通製ディスプレイのモデル名がモデル一覧にない場合は、次の操作を行ってください。
  1. 「ドライバーズ CD」をセットします。
  2. 「ディスク使用」をクリックします。
  3. 「配布ファイルのコピー元」に次のように入力し、「OK」をクリックします。
     [CD-ROM ドライブ]:¥monitor
- 「リフレッシュレート」ダイアログボックスが表示されたら、「OK」をクリックし、「はい」をクリックしてください。
- 解像度の設定ができなくなってしまったときは、本パソコンを再起動してください。

2 それでも解決できないときは

下記の連絡先へお問い合わせください。なお、お問い合わせ前に機種名／ MODEL ／カスタムメイド型番を確認し、「お問い合わせ前の確認シート」（••▶ P.62）に環境とトラブル状況などを記入してください。

■ 機種名／ MODEL ／カスタムメイド型番の表記場所

パソコン本体に貼られているラベルに記載されています。



■ 連絡先

こんなときには	こちらへ
添付品の不備	ご購入元
故障かなと思われたとき	「富士通パーソナル製品に関するお問合せ窓口」※ またはご購入元
FM シリーズの技術的なご質問・ご相談	「富士通パーソナル製品に関するお問合せ窓口」※
本パソコンにインストールされているソフトウェアのお問い合わせ	「お問い合わせ一覧」（••▶ P.61）

※：「富士通パーソナル製品に関するお問合せ窓口」は、添付の『修理サービス網一覧表』をご覧ください。

■ 情報サービス

また、次の方法で情報サービスを行っております。

富士通パソコン FAX サービス（カタログ、Q&A 情報）	043-299-3642（千葉） 06-6949-3270（大阪）
インターネット（製品の技術情報、Q&A 情報）	富士通パソコンホームページ FM WORLD.NET http://www.fmworld.net/

お問い合わせ一覧

本パソコンに添付されているソフトウェアの内容については、次の連絡先にお問い合わせください。なお、記載の情報は、2001 年 4 月現在のものです。電話番号などが変更されている場合は、「富士通パーソナル製品に関するお問合せ窓口」へお問い合わせください。

- **はじめよう！インターネット（@nifty）**
  - ・入会／ @nifty サービス全般
    ニフティ株式会社 @nifty サービスセンター
    9:00 ～ 21:00（指定の休日を除く）
    電話：0120-816-042
    （携帯・PHS・海外の場合：03-5444-2902）
    E-mail：feedback@nifty.com
    URL：http://www.nifty.com/support/madoguchi/index.htm
  - ・パスワード再発行／各種手続き／解約
    ニフティ株式会社 @nifty カスタマーセンター
    9:00 ～ 21:00（指定の休日を除く）
    電話：0120-842-210
    （携帯・PHS・海外の場合：03-5471-5806）
    E-mail：feedback@nifty.com
- VirusScan Ver.4.5
  日本ネットワークアソシエイツ株式会社
  テクニカルサポートセンター
  9:00 ～ 12:00、13:00 ～ 17:00（土日、祝祭日を除く）
  電話：03-3379-7770
  URL：http://www.nai.com/japan/
- Adobe Acrobat Reader4.05
  ソフトウェア提供会社様より無償で提供されている製品のため、ユーザーサポートはございません。ご了承ください。
- **アプリケーション（カスタムメイドオプション）**
  各アプリケーションのマニュアルをご覧ください。
- **その他　FM シリーズの技術的なご質問・ご相談**
  富士通パーソナル製品に関するお問合せ窓口
  （添付の『修理サービス網一覧表』をご覧ください）

本ソフトウェア製品の中には第三者のソフトウェア製品が含まれています。お客様の本ソフトウェア製品の使用開始については、お客様が弊社の「ご使用条件」に同意された時点とし、第三者のソフトウェア製品についても同時に使用開始とさせていただきます。
なお、第三者のソフトウェアについては、製品の中に特に記載された契約条件がある場合には、その契約条件にしたがい取り扱われるものとします。

お問い合わせ前の確認シート

■ お客様の環境

お使いの パソコンの 機種は？	機種名：FMV-	MODEL：FMV
	カスタムメイド型番：	
	購入日：	購入店：

メモリの容量は？	本体標準：　　MB	
	増設：　　MB	［メーカー：　　］ ［型番：　　］

	種類	型番号	メーカー
増設した 周辺機器は？			

	ソフトウェア名	バージョン／レベル	メーカー
お使いの ソフトウェアは？	Windows Millennium Edition	4.90.3000	―

■ トラブル状況

トラブルの内容は？	
何をしているときに 起こりましたか？	
エラーメッセージは 表示されましたか？ その内容は何ですか？	
以前は問題なく 動作していましたか？	・以前は動作した ・今回初めて試した ・以前から動作しない

3　その他の留意事項

本パソコンをお使いになるうえでの留意事項を記載しています。

POINT

- 富士通パソコンホームページ FM WORLD.NET（http://www.fmworld.net）にも、製品の情報が掲載されています。本書に記載されていない留意事項については、そちらをご覧ください。

■ Windows Me の CD-ROM を要求された場合

ドライバのインストール時などに、Windows Me の CD-ROM を要求するメッセージが表示されることがあります。このときは「OK」をクリックし、「c:¥windows¥options¥cabs」と指定してください。

■ 本パソコンで使用するソフトウェア

古いバージョン／レベルのソフトウェア（アプリケーション、ドライバ）を使用すると、本パソコンおよびソフトウェアが正常に動作しない場合があります。本パソコンに添付されているソフトウェアは、添付されているバージョンを使用するか、その最新版を入手して使用してください。
また、本パソコンに添付されていないソフトウェアの場合も、最新版を使用してください。

■【Windows】キーを押したときの動作

アプリケーションを終了した直後やメッセージなどが表示されたウィンドウを閉じた直後に【Windows】キーを押すと、エラーメッセージが表示される場合があります。この場合は、「閉じる」をクリックしてエラーメッセージを閉じ、Windows を再起動してください。

■ 他の OS を使うには

Windows 2000 など、他の OS を使うには、いくつかの設定を行う必要があります。ただし、機種により使用できない OS もあります。
詳しくは、富士通パソコンホームページ FM WORLD.NET（http://www.fmworld.net/）をご覧ください。
なお、インターネットをご利用になれない場合は、ご購入元にご確認ください。

■ Acrobat Reader について

市販のアプリケーションによっては、インストールの際に、Acrobat Reader を一緒にインストールするものがあります。このとき、本パソコンにプレインストールされている Acrobat Reader 4.05 よりも低いバージョンのものがインストールされてしまうことがあります。
バージョンをご確認のうえ、Acrobat Reader 4.05 をインストールし直してください（••▶ P.50）。

■ FM Advisor の CPU 情報表示

FM Advisor の「CPU 情報」の表示において、CPU 名・CPU クロックが正しく表示されない場合があります。あらかじめご了承ください。

■ Wakeup On LAN 機能

□ 設定方法

ネットワーク環境下で Wakeup On LAN 機能を使用する場合は、次の設定を行ってください。また、LAN 機能を使用してパソコンの電源を入れる場合は、BIOS セットアップでの設定が必要です（••▶『ハードウェアガイド』参照）。

1 「マイコンピュータ」アイコンを右クリックし、「プロパティ」をクリックします。
「システムのプロパティ」ダイアログボックスが表示されます。

2 「デバイスマネージャ」タブをクリックし、「ネットワークアダプタ」をダブルクリックします。

3 次のデバイスを右クリックし、「プロパティ」をクリックします。

〔SL7e〕〔CX7〕	Intel 8255x-based PCI Ethernet Adapter (10/100)
〔SL7〕〔CL7〕	Intel(R) PRO/100 VM Desktop Adapter
〔CL7s〕〔ML7〕	Realtek RTL8139(A/B/C/8130) PCI Fast Ethernet NIC

4 「電源の管理」タブをクリックします。

5 次の 2 つの項目をチェックし、「OK」をクリックします。
・節電のために、コンピュータでこのデバイスの電源をオフにできるようにする
・コンピュータのスタンバイ解除の管理をこのデバイスで行う

■ LAN 着信によるレジューム（Wakeup On LAN）機能の留意事項〔CL7s〕〔ML7〕

ローカルアドレス運用時、スタンバイ、休止状態、シャットダウンからの復帰は行えません。

■ プロトコルの設定

本パソコンでのネットワークの運用時には、必ず通信プロトコルを確認してください。「コントロールパネル」ウィンドウの「ネットワーク」アイコンをダブルクリックし、「ネットワークの設定」タブで確認および変更します。本パソコンのご購入時の設定では、「TCP/IP」が選択されていますので、接続するネットワークのプロトコルに合わせて変更してください。使用するプロトコルについては、ネットワーク管理者にご確認ください。

■ ネットワーク使用時の留意事項

次の LAN デバイスを複数使用したネットワーク運用は行えません。

- 2 枚の LAN カード
- パソコン本体の内蔵 LAN デバイスと LAN カード

■ 複数のオーディオソースを録音する場合

複数のオーディオソース（マイクやラインインなど）を録音する場合、次の操作を行ってください。

1. タスクバーのスピーカーアイコンをダブルクリックします。
2. 「オプション」メニュー→「プロパティ」の順にクリックします。
3. 「音量の調整」で「録音」をクリックし、「表示するコントロール」で以下をチェックして「OK」をクリックします。

   〔SL7e〕〔SL7〕〔CL7〕〔CL7s〕〔CX7〕　「Stereo Mix」
   〔ML7〕　「Wave Out Mix」
4. 「Stereo Mix」または「Wave Out Mix」の「選択」をチェックします。

これで、「マスタ音量」として出力される音すべてが録音対象となります。この場合、録音するオーディオソースの選択やボリュームレベル、バランスなどを「マスタ音量」のミキサーで操作します。

■ 復電時に電源が入る場合

停電から復旧したとき、またはACコンセントを抜き差ししたときに、自動的にパソコンの電源が入ることがあります。この場合は、BIOSセットアップを次のように設定してください。

〔SL7e〕〔SL7〕〔CL7〕「省電力」－「AC通電再開時の動作」：電源オフ
〔CL7s〕　「詳細」－「省電力設定」－「AC通電再開時の動作」：Off
〔ML7〕　「Advanced」－「Power On/Off」－「Power Failure Recovery」：Disabled
〔CX7〕　「省電力」－「AC通電再開時の動作」：電源OFF

■ USB

USBインターフェースは、将来ご購入されるUSB対応周辺装置すべての動作を保証するものではありません。USBに関する最新情報については、下記のオンライン情報サービスにてご案内する予定です。

FM WORLD.NET：http://www.fmworld.net/

■ CD-ROMドライブのDMA設定〔CL7s〕〔CX7〕

「システムのプロパティ」ダイアログボックスの「デバイスマネージャ」タブでCD-ROMのDMAの設定を行わないでください。正常な動作が保証できません。

■ CD-R/RWドライブのDMA設定〔CL7〕〔CL7s〕〔CX7〕

カスタムメイドオプションでCD-R/RWドライブ（ATAPI）を選択している場合、「システムのプロパティ」ダイアログボックスの「デバイスマネージャ」タブでCD-R/RWのDMA設定を行わないでください。正常な動作が保証できません。

■ 光磁気ディスクドライブの DMA 設定〔SL7e〕〔SL7〕〔ML7〕

カスタムメイドオプションで光磁気ディスクドライブ（ATAPI）を選択している場合、「システムのプロパティ」ダイアログボックスの「デバイスマネージャ」タブでディスクドライブの「FUJITSU MCE3130AP」「FUJITSU MCE3064AP」の DMA 設定を行わないでください。正常な動作が保証できません。

■ IDE デバイス接続時の留意事項〔SL7e〕〔SL7〕

セカンダリ IDE のマスタ側に接続して使用していたデバイスをスレーブ側に接続する場合は、接続し直す前に次の手順を行ってください。この手順を行わずに接続した場合、デバイスが見えなかったり、DMA の設定が正しく行われなかったりすることがあります。

1. 「マイコンピュータ」アイコンを右クリックし、「プロパティ」をクリックします。
2. 「デバイスマネージャ」タブの「接続別に表示」をクリックします。
3. 次の項目の「+」を順にクリックして、セカンダリ IDE に接続されているデバイスを表示します。
   「Advanced Configuration and Power Interface (ACPI) BIOS」－「PCI バス」－「Intel 82801AA Bus Master IDE Controller」 －「セカンダリ IDE コントローラ（デュアル FIFO）」
4. 「セカンダリ IDE コントローラ（デュアル FIFO）」の下に表示されている項目をクリックして、「削除」をクリックします。
   表示されている項目はすべて削除してください。
5. Windows を終了し、本パソコンの電源を切ります。
6. デバイスを接続します。
7. 本パソコンを起動します。
   接続したデバイスが検出されますので、メッセージに従って操作してください。

■ IDE 規格の内蔵ハードディスクを増設するときの留意事項〔ML7〕

IDE 規格の内蔵ハードディスクを増設してお使いになる場合、「ドライバーズ CD」内の下記ドライバをインストールしてください。なお、インストール手順はフォルダ内の Install.txt に従ってください。

・フォルダ名　¥Ide
・ドライバ名　Intel(R) 815E IDE Driver for Windows ME

インストール後、CD-ROM または CD-R/RW ドライブを搭載している場合は、CD-ROM または CD-R/RW ドライブの転送モードの設定を「PIO-4」に変更してください。転送モードの設定手順は上記フォルダ内の Install.txt をご覧ください。

■ 表示されるメモリサイズ〔SL7〕〔CL7〕〔CL7s〕〔ML7〕〔CX7〕

「システムのプロパティ」上で表示されるメモリサイズは、実際に搭載されているメモリサイズより、〔SL7〕〔CL7〕〔ML7〕〔CX7〕では 1 ～ 2MB 少なく、〔CL7s〕では 8MB 少なく表示されます。

■ 2DD（720KB）フロッピーディスクのフォーマット

2DD のフロッピーディスクをフォーマットしたあとにファイルコピーを行うと、「ディスク書き込みエラー」が表示されることがあります。この場合、何かキーを押せば、デスクトップ画面に戻ることができます。

■ ディスプレイドライバ

□ 機種共通

- 「ドライバーズ CD」内のご使用になるディスプレイドライバのフォルダに、Readme.txt などの説明ファイルが用意されています。その他の注意事項を記載していますので、あわせてご覧ください。
- 解像度を変更した場合、一部のアプリケーションでウィンドウが画面からはみ出すことがあります。この場合は、ウィンドウをドラッグして正しい位置に移動するか、解像度を元に戻してください。
- ディスプレイ接続時、画面が中央に表示されない場合は、ディスプレイにあった周波数が設定されているか確認してください。それでも中央に表示されない場合は、ディスプレイの設定機能を使用して調整してください（〔CX7〕除く）。
- 解像度／色数を変更する場合は、必ず起動中のアプリケーションや常駐しているプログラムを終了させてから行ってください。また、変更後は必ず再起動してください。画面の表示が乱れることがあります。
- グラフィック性能は、環境設定および使用するアプリケーションによって異なります。
- 「(標準ディスプレイ)」の「SuperVGA」ドライバは使用しないでください。
- Windowsがプラグアンドプレイモニタを自動検出したとき、手動でディスプレイの変更を行うと解像度が正しく表示されないことがあります。この場合は、「システムのプロパティ」ダイアログボックスの「デバイスマネージャ」タブから「モニタ」をダブルクリックし、設定されているディスプレイを削除します。そのあと「更新」をクリックして、再び自動検出を行ってください。
- スクリーンセーバー表示中に、カーソル表示が残る場合があります。
  フルスクリーンで動作するアプリケーションを実行するときは、スクリーンセーバーを OFF にしておくことをお勧めします。スクリーンセーバー復帰後ウィンドウ画面になることがあります。
- DirectX 対応のソフトウェアをご使用の場合、必ず本パソコンにインストールされているディスプレイドライバに合った DirectX のランタイムをインストールしてください。
- 動画を再生するときは、ディスプレイの省電力機能やシステムスタンバイの設定は行わないでください。
- 本パソコンにインストールされているディスプレイドライバは、DirectX8.0 をサポートしています。
- 仕様の異なるディスプレイ（特に液晶ディスプレイ）に交換すると、画面が表示されないなどの表示異常が発生する場合があります。次の手順で交換してください（〔CX7〕除く）。
  1. 交換前に解像度を 640 × 480 に設定します。
  2. リフレッシュレートを「アダプタの既定値」に設定します。
  3. 本パソコンの電源を切り、ディスプレイを交換します。

  上記設定を行わずにディスプレイを交換して、画面が表示されない、または表示できない解像度がある場合、次の手順でドライバを再インストールしてください。
  1. Safe モードで Windows を起動します（••▶ P.57）。

2. グラフィックアダプタを「標準 PCI グラフィックアダプタ（VGA）」に設定して再起動します。
3. ディスプレイドライバを再インストールします。

- お使いになるディスプレイや、解像度の設定によっては、CAD 系アプリケーションなどで縦線と横線の太さが異なって見えることがあります。設定を調整して使用してください。
- ソフトウェアカーソル（アニメーションポインタなど）を使用すると、カーソルがフラッシュ（点滅）することがあります。
- アプリケーションが正常に動作しない場合は、次のいずれかの操作を行ってください。
  ・「画面のプロパティ」ダイアログボックスで色数の設定を変更します。
  ・次の手順で「ハードウェアアクセラレータ」を「なし」に設定します。なお、この設定を行うとアプリケーションによっては性能低下や音声などに問題が発生する場合があります。ご了承ください。
    1.「マイコンピュータ」アイコンを右クリックし、「プロパティ」をクリックします。
    2.「パフォーマンス」タブの「グラフィックス」をクリックします。
    3.「ハードウェアアクセラレータ」を「なし」に設定し、「OK」をクリックします。

□〔SL7e〕〔CL7s〕の場合

- 256 色の設定では、Direct3D のハードウェアアクセラレーション（HAL）はサポートしていません。色数を 256 色に設定した状態で Direct3D 対応のアプリケーションを表示させた場合、ソフトウェアでの実行となるため、表示速度／表示画質に問題が発生する場合があります。この場合は色数を High Color（16 ビット）/ True Color（32 ビット）に設定してください。

□〔SL7〕〔CL7〕〔ML7〕〔CX7〕の場合

- 256 色 / True Color（24 ビット）の設定では、Direct3D のハードウェアアクセラレーション（HAL）はサポートしていません。色数を 256 色 / True Color（24 ビット）に設定した状態で Direct3D 対応のアプリケーションを表示させた場合、ソフトウェアでの実行となるため、表示速度／表示画質に問題が発生する場合があります。この場合は色数を High Color（16 ビット）に設定してください。
- マウスカーソルにハードウェアカーソルを使用している場合、カーソルが変形する瞬間に点滅することがあります。動作上問題ありませんので、そのまま使用してください。
- 画面のプロパティを開いた状態で省電力機能を使用すると、表示が乱れることがあります。
- 次の場合に画面が一瞬暗くなることがあります。動作上問題ありませんので、そのままお使いください。
  ・Windows の起動ロゴ画面
  ・デバイスマネージャ上で「更新」をクリックした瞬間
  ・「コントロールパネル」の「ハードウェアの追加」を実行後、ウィンドウを閉じる瞬間
- 解像度、色数、周波数を変更したあとに、画面が表示されない、画面が中央に表示されないなどの問題が生じた場合、下記の手順でモニタを「プラグアンドプレイモニタ」に変更していただくと、正常に表示されることがあります（特に、液晶ディスプレイ、プラズマディスプレイをお使いの場合）。
  1. デスクトップで右クリックし、「プロパティ」をクリックします。
     「画面のプロパティ」ダイアログボックスが表示されます。
  2.「設定」タブをクリックします。
  3.「詳細」をクリックします。
  4.「モニタ」タブをクリックします。

5.「変更」をクリックします。
「デバイスドライバの更新ウィザード」が表示されます。
6.「ドライバの場所を指定する ...」をクリックし、「次へ」をクリックします。
7.「特定の場所にあるすべてのドライバの一覧を作成し、インストールするドライバを選択する」を選択し、「次へ」をクリックします。
8.「すべてのハードウェアを表示」を選択します。
9.「製造元」から「(標準モニタの種類)」を、「モデル」から「プラグアンドプレイモニタ」を選択し、「次へ」をクリックします。
10.「次へ」をクリックします。
11.「完了」をクリックします。
12.「閉じる」をクリックします。
13.「OK」をクリックします。

□〔CL7s〕の場合

- 「スタンバイおよび休止状態からの回復時にパスワードを入力する」の設定を行った場合、スタンバイ状態および休止状態になる直前にパスワード入力画面が数秒間表示される場合があります。動作上問題ありませんので、そのままお使いください。

■ 画面表示に関する留意事項

- 次のような場合に、画面が乱れたり画面上に線が見えることがあります。
  ・Windows を起動、または終了するとき
  ・スタンバイ状態になるとき、または元の状態に戻るとき
  ・休止状態になるとき、または元の状態に戻るとき
  ・画面の解像度や発色数、リフレッシュレートを変更するとき
  ・フルスクリーンにする、または元の状態に戻すなど、画面が切り替わるとき
  これは一時的な画面の乱れで、故障ではありません。あらかじめご了承ください。
- 「コントロールパネル」ウィンドウでアイコンを選択したときに、ウィンドウの左側の説明（選択したアイコンの情報が表示される部分）が正しく表示されない場合があります。この場合は、「コントロールパネル」ウィンドウを再表示（ウィンドウを最小化して元に戻すなど）してください。
  また、Safe モード中に表示したウィンドウ（「コントロールパネル」ウィンドウなど）は、そのあと Windows を再起動しても、ウィンドウ左側の説明が表示されません。この場合は、そのウィンドウの「ツール」メニューの「フォルダオプション」をクリックします。「フォルダオプション」ダイアログボックスが表示されたら、「全般」タブの「Web の表示」で、「フォルダで Web コンテンツを使う」を選択し、「OK」をクリックしてください。説明が表示されるようになります。
- 「画面のプロパティ」ダイアログボックスを表示したときや、「画面のプロパティ」ダイアログボックスの「設定」タブで色数を変更後再起動したときに、まれにエラーメッセージが表示される場合があります。この場合は、表示されたメッセージの「閉じる」をクリックし、Windows を再起動してください。
- 3D ポインタなどを使用していると、動画などを再生中にマウスポインタが表示されなかったり、ちらついて表示されたりすることがあります。このときは、「マウスのプロパティ」ダイアログボックス（「スタート」ボタン→「設定」→「コントロールパネル」の順にクリックし、「マウス」アイコンをダブルクリックすると表示されます）の「ポインタ」タブの「配色」を「(なし)」に設定してください。

■ Windows の起動と終了に関する留意事項

Windows の起動と終了については、次の点に注意してください。

- アプリケーションのウィンドウを表示したままWindowsを終了または再起動すると、エラーメッセージが表示される場合があります。また、Windows の終了または再起動中に、編集中のデータを保存するかどうかの確認メッセージが表示され、保存するように指定しても、正しく保存されない場合があります。Windows を終了または再起動するときは、必要なデータをすべて保存し、起動しているアプリケーションをすべて終了してください。
- アプリケーション（「メモ帳」や「ペイント」など）でファイルを新規に作成したあとに Windows を終了するときは、作成したファイルが必要な場合は、必ずそのファイルを保存してから Windows を終了してください。ファイルを保存せずに Windows を終了しようとしたときにも、保存先やファイル名を指定するダイアログボックスが表示されますが、このとき日本語入力システムは使用できません。

■「アクセサリ」に関する留意事項

□「スキャンディスク」実行中のメッセージ

「スキャンディスク」を実行中に、次のような警告メッセージが表示されることがあります。
「Windows またはほかのアプリケーションがこのドライブに書き込み中であるため、再試行回数が 10 回に達しました。実行中のほかのプログラムを終了すると、チェックが早くなります。今後もこの警告メッセージを表示しますか？」
この警告メッセージはアプリケーションや、Windows のメモリスワップ機能が、ディスクに書き込みを行っているために表示されるもので、本パソコンの異常を表すものではありません。「いいえ」をクリックして今後このメッセージを表示しないようにするか、「はい」をクリックしてそのまま処理を続けてください。

□「サウンドレコーダー」起動時のメッセージ

「サウンドレコーダー」を起動したときに、「サウンドレコーダーの設定が他のアプリケーションに変更されています。」というメッセージが表示される場合があります。
この場合は、「はい」をクリックして「サウンドレコーダー」を続けてください。本メッセージが表示されても、「サウンドレコーダー」の使用上は何も問題はありません。

□「ペイント」でビットマップの色が正常に保存できない場合

「ペイント」にビットマップを貼り付け保存せずに「ペイント」を終了すると、保存を確認するメッセージが表示されます。そのとき「はい」をクリックして保存すると、データの色数が 256 色の場合、ビットマップの色が正常に保存されない場合があります。「ペイント」を終了する場合は、「ファイル」メニューの「上書き保存」または「名前を付けて保存」をクリックし、ビットマップを保存してから終了してください。
また、ワープロソフトなどで作成した文書に貼り付けられた画像をオブジェクト編集する場合には、呼び出された「ペイント」のパレットの色が正しく表示されません。オブジェクトの編集は、画像を貼り付ける前に行ってください。

□「システム情報」で作成したテキストファイル

「システム情報」で、「ファイル」メニューの「エクスポート」を行うと、作成されたファイル内の「ドライブの空き領域」の値が、画面上の「Microsoft システム情報」で表示される内容と異なります。画面で表示されている値が正しい情報ですので、そちらをご覧ください。

□「拡大鏡」使用時の留意事項

「拡大鏡」を使用している場合、次の操作は「拡大鏡」を終了してから行ってください。

- 起動時に画面の解像度が変わるアプリケーションの起動
- Windows の終了

「拡大鏡」を起動したまま上記の操作を行うと、「拡大鏡」や壁紙が正しく表示されなくなる場合があります。「拡大鏡」が正しく表示されないときは、「拡大鏡」を再起動してください。壁紙が正しく表示されないときは、Windows を再起動してください。

■ アプリケーションのインストール時／アンインストール時の留意事項

アプリケーションのインストール／アンインストールについては、次の点に注意してください。

- アプリケーションを削除する方法は、それぞれのアプリケーションごとに異なります。各アプリケーションのマニュアル、またはヘルプをご覧ください。
- アプリケーションをアンインストールしたとき、そのアプリケーションに関連した、お客様が作成したファイルや設定した環境などが消えてしまうことがあります。アプリケーションを削除する前に、必要なファイルをフロッピーディスクなどにバックアップしておくことをお勧めします。
- アプリケーションをアンインストールする際、共有モジュールは削除しないことをお勧めします。削除すると、インストールされている他のアプリケーションが起動できなくなるなど、他のアプリケーションに影響を与える場合があります。
- 各アプリケーションを再インストールしたあと、「スタート」メニューにショートカットは登録されても、アイコンが表示されない場合があります。このときは、パソコン本体を再起動してください。
- アプリケーションのインストールまたはアンインストールを行うときに、他のアプリケーションを起動していると、アプリケーションエラーが発生することがあります。必ず、起動中のアプリケーションをすべて終了してから行ってください。
- アプリケーションのインストール時に、インストールが完了したことを知らせるダイアログボックスが他のウィンドウなどに隠れてしまう場合があります。この場合は、【Alt】+【Tab】キーを何回か押して、完了を知らせるダイアログボックスを表示し、インストールを終了させてください。
- アプリケーションをインストールしたあと、タスクバーに不要なボタンが残る場合があります。この場合は、そのボタンをクリックすると、ボタンが消えます。
- 特定のファイルとアプリケーションが関連付けられている場合、そのアプリケーションをアンインストールすると、関連付けの設定も解除されます。
- 一部のアプリケーションでは、アンインストール後、Windows Me を起動するたびに「プログラム開始エラー！」と表示される場合があります。これは、アプリケーションがアンインストールされたあともスタートアップにアプリケーションのショートカットが登録されたままになっているためです。この場合は、「スタート」メニューの該当するショートカットを削除してください。

■ 時刻の設定が反映されない場合

「日付と時刻のプロパティ」ダイアログボックス（「スタート」ボタン→「設定」→「コントロールパネル」の順にクリックし、「日付と時刻」アイコンをダブルクリックすると表示されます）で日付や時刻を変更したあと、「適用」をクリックして設定した場合は、「OK」をクリックして「日付と時刻のプロパティ」ダイアログボックスを閉じてください。「キャンセル」または で閉じると、変更した結果が正しく設定されない場合があります。

■ フロッピーディスクのフォーマット

未フォーマットのフロッピーディスクを Windows Me でフォーマットすると、他の OS 上でフォーマットするときよりも時間がかかります。あらかじめご了承ください。
また、未フォーマットのフロッピーディスクをフォーマット中は、「フォーマット」ダイアログボックスの「キャンセル」をクリックしないでください。もし「キャンセル」をクリックしてしまった場合は、【Ctrl】+【Alt】+【Delete】キーを押して、Windows を再起動してください。

■「エクスプローラ」が動作しなくなった場合

「エクスプローラ」で CD-ROM ドライブの内容を表示したまま Windows を再起動し、その再起動中に CD-ROM を取り出すと、再起動した直後に「エクスプローラ」が反応しなくなる場合があります。この場合は、【Ctrl】+【Alt】+【Delete】キーを押して、「エクスプローラ」を終了してください。

索引

記号

3 モードフロッピーディスク
ドライバ 13

A

ACPI 30
Acrobat Reader 13
　ーのインストール 50

C

CD-ROM 15

D

DeskView 14
　ーのインストール 20
DirectCD 12, 14
DirectX8.0 13
DMA 18, 65, 66

E

Easy CD Creator 12, 13

F

FAT16 . . . . . 18, 39
FAT32 . . . . . 18, 39
FM Advisor 13, 54
　ーのインストール 50
FM-Menu 14
　ーのインストール 20
FMV 診断 13, 54
　ーのインストール 50
FM ー発修正 13, 55
　ーのインストール 51

I

IDE ドライバ 14
　ーのインストール 49
Internet Explorer 5.5 13

L

LAN ドライバのインストール 49

M

Microsoft IME2000 13
MODEL 60

O

OS 追加プログラム 14

P

PCMCIA ソケット 15

S

SCSI コントローラ 15
Smart Card Reader 15

V

VirusScan 14, 24
　ーのインストール 20

W

Wakeup On LAN 機能 64
Windows 2000 63
Windows Me 13
　ー起動ディスクの作成 10
　ーセットアップ 8
　ーの CD-ROM 63
Windows Me ツール 13
Windows 環境調査ツール
（FM Advisor） 13
　ーのインストール 50
WinDVD 14

あ行

アンインストール 21
色数 26
お問い合わせ前の確認シート 62

か行

解像度 26
カスタムメイド型番 60
キーボード 15
機種名 60

休止状態 30
　ーの留意事項 31
コンピュータウイルス 24
　ーの被害届け 25
　ーを発見した場合 25

さ行

サウンドドライバのインストール 49
サウンド、ビデオ、およびゲームの
コントローラ 15
使用許諾契約書 9
省電力 30
情報サービス 60
スタンバイ 30
　ーの留意事項 31
スマートカードドライバの
インストール 49

た行

他の OS 63
ディスクドライブ 15
ディスプレイ
　ーアダプタ 16
　ードライバのインストール 49
ドライバーズ CD 49
ドライブ構成 18
トラブルシューティング 54

な行

ネットワーク
　ー使用時の留意事項 64
ネットワークアダプタ 16

は行

ハードディスク
　ーコントローラ 16
はじめよう！インターネット
（@nifty) 14
　ーのインストール 20
プレインストール
　ー仕様の確認 13
　ーソフト 13
フロッピーディスクコントローラ 16
プロトコルの設定 64
ポート（COM/LPT） 16

ま行

マウス 16
モニタ 16

や行

ユーザー登録 10
ユニバーサルシリアルバス
コントローラ 17

ら行

リカバリ CD-ROM 起動ディスク
　ーの準備 10
リカバリ概要 38
リカバリ操作 41
連絡先 60

Memo

使用許諾契約書

富士通株式会社（以下弊社といいます）では、本パソコンにインストール、もしくは添付されているソフトウェア（以下本ソフトウェアといいます）をご使用いただく権利をお客様に対して許諾するにあたり、下記「ソフトウェアの使用条件」にご同意いただくことを使用の条件とさせていただいております。
なお、お客様が本ソフトウェアのご使用を開始された時点で、本契約にご同意いただいたものといたしますので、本ソフトウェアをご使用いただく前に必ず下記「ソフトウェアの使用条件」をお読みいただきますようお願い申し上げます。ただし、本ソフトウェアのうちの一部ソフトウェアに別途の「使用条件」もしくは「使用許諾契約書」等が、添付されている場合は、本契約に優先して適用されますので、ご注意ください。

ソフトウェアの使用条件

1. 本ソフトウェアの使用および著作権
   お客様は、本ソフトウェアを、日本国内において本パソコンでのみ使用できます。なお、お客様は本パソコンのご購入により、本ソフトウェアの使用権のみを得るものであり、本ソフトウェアの著作権は引き続き弊社または開発元である第三者に帰属するものとします。
2. バックアップ
   お客様は、本ソフトウェアにつきまして、1 部の予備用（バックアップ）媒体を作成することができます。
3. 本ソフトウェアの別ソフトウェアへの組み込み
   本ソフトウェアが、別のソフトウェアに組み込んで使用されることを予定した製品である場合には、お客様はマニュアル等記載の要領に従って、本ソフトウェアの全部または一部を別のソフトウェアに組み込んで使用することができます。
4. 複製
   (1) 本ソフトウェアの複製は、上記「2.」および「3.」の場合に限定されるものとします。
   本ソフトウェアが組み込まれた別のソフトウェアについては、マニュアル等で弊社が複製を許諾していない限り、予備用（バックアップ）媒体以外には複製は行わないでください。
   ただし、本ソフトウェアに複製防止処理がほどこしてある場合には、複製できません。
   (2) 前号によりお客様が本ソフトウェアを複製する場合、本ソフトウェアに付されている著作権表示を、変更、削除、隠蔽等しないでください。
5. 第三者への譲渡
   お客様が本ソフトウェア（本パソコンに添付されている媒体、マニュアルならびに予備用バックアップ媒体を含みます）を第三者へ譲渡する場合には、本ソフトウェアがインストールされたパソコンとともに本ソフトウェアのすべてを譲渡することとします。なお、お客様は、本パソコンに添付されている媒体を本パソコンとは別に第三者へ譲渡することはできません。
6. 改造等
   お客様は、本ソフトウェアを改造したり、あるいは、逆コンパイル、逆アセンブルをともなうリバースエンジニアリングを行うことはできません。
7. 保証の範囲
   (1) 弊社は、本ソフトウェアとマニュアル等との不一致がある場合、本パソコンをご購入いただいた日から 90 日以内に限り、お申し出をいただければ当該不一致の修正に関して弊社が必要と判断した情報を提供いたします。
   また、本ソフトウェアの記録媒体等に物理的な欠陥（破損等）等がある場合、本パソコンをご購入いただいた日から1ヶ月以内に限り、不良品と良品との交換に応じるものとします。
   (2) 弊社は、前号に基づき負担する責任以外の、本ソフトウェアの使用または使用不能から生じるいかなる損害（逸失利益、事業の中断、事業情報の喪失その他の金銭的損害を含みますが、これに限られないものとします）に関しても、一切責任を負いません。たとえ、弊社がそのような損害の可能性について知らされていた場合も同様とします。
   (3) 本ソフトウェアに第三者が開発したソフトウェアが含まれている場合においても、第三者が開発したソフトウェアに関する保証は、弊社が行う上記（1）の範囲に限られ、開発元である第三者は本ソフトウェアに関する一切の保証を行いません。
8. ハイセイフティ
   本ソフトウェアは、一般事務用、パーソナル用、家庭用などの一般的用途を想定したものであり、ハイセイフティ用途での使用を想定して設計・製造されたものではありません。お客様は、当該ハイセイフティ用途に要する安全性を確保する措置を施すことなく、本ソフトウェアを使用しないものとします。ハイセイフティ用途とは、下記の例のような、極めて高度な安全性が要求され、仮に当該安全性が確保されない場合、直接生命・身体に対する重大な危険性を伴う用途をいいます。

   記

   原子力核制御、航空機飛行制御、航空交通管制、大量輸送運行制御、生命維持、兵器発射制御など

富士通株式会社

マイクロソフト製品サービスパック

Microsoft® Windows® をご利用のお客様がより安定したシステムを運用していく上で、マイクロソフト社はサービスパックを提供しております（http://www.microsoft.com/japan/）。
お客様は、最新のサービスパックをご利用いただくことにより、その時点でマイクロソフト社が提供する Microsoft® Windows® にて最も安定したシステムを構築できます。
したがいまして、当社としては、最新のサービスパックをご利用いただくことを基本的には推奨いたします。
ただし、お客様の環境によっては、サービスパック適用により予期せぬ不具合が発生する場合もありますので、ご利用前にはサービスパックの Readme.txt を必ずご確認ください。
また、万一、インストールに失敗したことを考慮し、システムのバックアップを取ることを推奨いたします。

FMV-611GSL7e/610GSL7e/610GSL7/6866SL7/6766SL7c
FMV-610GCL7/6866CL7/6766CL7c/6750CL7s
FMV-6766ML7c
FMV-6866CX7/6766CX7c

Windows® Me モデル
ソフトウェアガイド
B5FH-2851-01-01

発 行 日　2001 年 4 月
発行責任　富士通株式会社

●本書の内容は、改善のため事前連絡なしに変更することがあります。
●本書に記載されたデータの使用に起因する第三者の特許権およびその他の権利の侵害については、当社はその責を負いません。
●無断転載を禁じます。